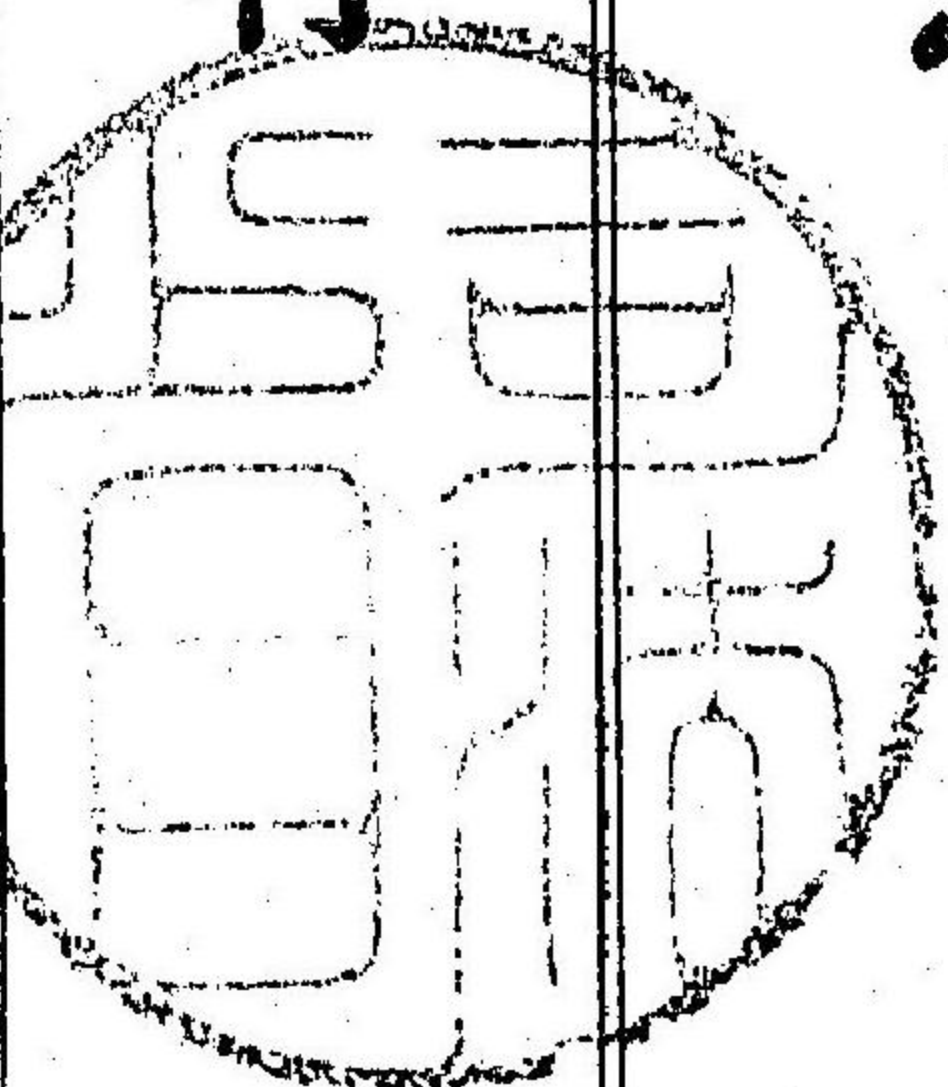


司法省藏板

法省達全書

明治十六年二月印行



CZ
771
05

明治十五年司法省達全書

甲號目次

甲第一號 治安裁判所管轄區郡分管町村

名ヲ示ス

一丁

丙號目次

丙第一號 違警罪事件各表式ヲ定ム

四五丁

丙第二號 同上表式中ヲ改正ス

四六丁

丙第三號 死刑宣告榜示公告雛形ヲ定ム

四七丁

丙第四號 勾引狀期限計算方ヲ定ム

四九丁

丙第五號 檢察官ニ於テ公判言渡書等ヲ

求ルルハ書記局ニ於テ謄本ヲ

交付スルヲ

五〇丁

一 丙第六號

已決囚ノ逃走シタル者ニ對シ

二

- 丙第七號 逮捕狀ヲ發スル手續ヲ定ム 五一丁
- 被告人逮捕ノハ管轄檢察官ヘ
照會中ノ取扱方ヲ示ス 五八丁
- 丙第八號 罪人ヲ司獄官ヘ護送セシムル
ルハ宣告ノ謄本ヲ送達セシム 六一丁
- 丙第九號 帶動者ノ犯罪ヲ處分セシキハ
其罪狀等ヲ届出シム 六二丁
- 丙第十號 調書ヲ作リタル司法警察官ヲ
證人トナス手續并席次ヲ定ム 六三丁
- 丙第十一號 勅委任官華族並有位輩犯罪處
分方ノ手續ヲ示ス 六四丁
- 丙第十二號 裁判官渡書ノ謄本料ハ違警罪
ニ限リ徵收セシメス 六五丁

丙第十三號 存留養親等ニ付テノ太政官ノ

裁令ヲ示ス

同 丁

丙第十四號 刑法第六十二條ノ令狀ハ始審

裁判所々在地方ヲ除ク外ハ警部

ヨリ發セシム

六七丁

丙第十五號 府縣ヨリ布令スル條則届出方

ヲ改定ス

六八丁

丙第十六號 褒章沒収處分方ヲ定ム

伺請訓等差出方ヲ示ス

七〇丁

丙第十八號 被告人ヲ重罪裁判所開廳地ノ

監倉ニ移ス手續ヲ定ム

七一丁

丙第十九號 丙訓條例ヲ府縣等ニ示ス

犯罪ノ用ニ供ヘ及犯罪ニ因リ

三

丙第二十號

七二丁

四

- 丙第廿一號 得タル物件處分方ヲ定ム 七五丁
- 重罪犯ト雖減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處スヘキ者ハ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬セシム 七六丁
- 丙第廿二號 告發シタル官吏ヲ証人トシ出廷セシムル手續ハ本年丙第十號達ニ準據セシム 七七丁
- 丙第廿三號 違警罪輕罪事件表差出方ヲ定ム 七八丁
- 丙第廿四號 所有主アル贓物ハ假コ本人ヘ下渡スヲ 同丁
- 丙第廿五號 証人輩ノ旅費等ハ官廳ニ於テ立替渡ヲナサ、ルヲ 七九丁

五

- 丙第廿六號 公訴裁判費用支出方ヲ定ム 八〇丁
- 丙第廿七號 檢事補兼勤ノ警部職務上需用品供給方ヲ定ム 八一丁
- 丙第廿八號 贓贖追徵金送納期限ヲ定ム 八二丁
- 丙第廿九號 違警罪公判表ヘ追加ス 同丁
- 丙第卅號 檢察官ニ於テ棄却セシ告訴告發ノ件目ヲ差出サシム 八三丁
- 丙第卅一號 本年丙第二十二號達ニ但書ヲ追加ス 八四丁
- 丙第卅二號 官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付証明セシムル手續ハ本年丙第十號達ニ依ラシム 八五丁
- 丙第卅三號 治安裁判所ニ於テ處斷セシ輕

六

罪事件表調成方ヲ定ム

八六丁

丙第卅四號

集治監拘禁中ノ囚人ニ對シ訊

問スルキハ該監吏へ囑託スル

ヲ得セシム

同 丁

丙第卅五號

實際注意ヲ要スヘキ内訓指令

ハ爲心得各廳へ通牒セシム

八七丁

丁號目次

丁第一號

各廳供用書籍調成手續ヲ定ム

八八丁

丁第二號

陸海軍治罪手續ニ付テ太政官

ノ裁令ヲ示ス

九三丁

丁第三號

人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ

受否等現今經伺中ノ件ハ直ニ

其管轄裁判所へ移シ處分セシ

七

ム

丁第四號

民事及勸解件數表雛形ヲ定ム

一〇三丁

丁第五號

豫審事件表式ヲ定ム

同 丁

丁第六號

陸海軍々人へノ勅諭ヲ示ス

一〇四丁

丁第七號

裁判所ヨリ管内へ布令スヘキ

件ハ従前ノ手續ニ從ハシム

一一八丁

丁第八號

治安裁判所ニ於テ處斷セシ輕

罪事件表式ヲ定ム

同 丁

丁第九號

宣告膳本料并使丁違約金等徴

収ノ分納附方ヲ定ム

一一九丁

丁第十號

客年八十三號布告ヲ知得セシ

シテ控訴シタル件ハ受理ノ上

管轄裁判所へ引續シム

一二〇丁

八

丁第十一號 重罪裁判所印章ヲ定ム 一二一丁

丁第十二號 判事檢事出京ノ節判任官ノ隨行ヲ禁ス 一二二丁

丁第十三號 客年八十二號布告ニ依リ處分セシ刑事件數表ヲ定ム 同 丁

丁第十四號 未決囚逃走ノ際發スル逮捕狀調製方ヲ定ム 一二三丁

丁第十五號 人民ヨリ郡區長ニ對スル詞訟受否等經伺ノ際都テノ書類正副二通ヲ出サシム 一二四丁

丁第十六號 控訴書類返附遞送費ニ付テノ指令ヲ示ス 一二五丁

丁第十七號 陸海軍省ヨリ未決囚逃走ニ付

丁第十八號 捕縛方依頼ノ節取扱方ヲ定ム 一二七丁
陸海軍省ヨリ既決囚逃走ニ付 同 丁

丁第十九號 捕縛方依頼ノ節取扱方ヲ定ム 同 丁
新聞條例並讒謗律犯者表ヲ改正ス 同 丁

丁第二十號 裁判傍聽人ハ官民ヲ問ハス渾テ傍聽席ニ就カシム 一三〇丁

丁第二十一號 本年內務省乙第二十號達ヲ示ス 同 丁

丁第二十二號 北海道兵備ヲ第二軍管々轄ニ屬セラレシム 一三一丁

丁第二十三號 各廳供用書籍取扱方 同 丁

丁第二十四號 治罪法第三百三十四條同第三百三

九

十五條ノ令狀發シ方

一三三丁

丁第廿五號

郡區長ニ對スル詞訟裁判申渡セシキハ控訴裁判所へモ通報セシム

報セシム

一三四丁

丁第廿六號

同上達ヲ控訴裁判所へ示ス

一三五丁

丁第廿七號

府縣ヨリ布令スル條則届出方ヲ改定ス

同 丁

丁第廿八號

月俸給與區分條中ヲ改正ス

一三六丁

丁第廿九號

審理表雛形并勸解表雛形ヲ廢ス

ス

同 丁

丁第卅號

陸軍檢閱條例中改正ノヲ

一三七丁

丁第卅一號

刑事裁判統計材料表式ヲ定ム

一三八丁

丁第卅二號

特赦表式ヲ定ム

一三九丁

丁第卅三號

檢証ノ爲メ囚人召連出張ノ手續并費用支辨方ヲ定ム

同 丁

丁第卅四號

使丁規則條中ヲ改正ス

一四〇丁

丁第卅五號

國庫へ納入スヘキ雜收入等ノ金錢取扱方ヲ付大藏省ノ通達ヲ示ス

ヲ示ス

一四一丁

丁第卅六號

管内旅費支給方ヲ定ム

一四二丁

丁第卅七號

本年丁第三十號達諸表罫紙ハ請求ニ依リ本省ニ於テ摺立下

渡サシム

同 丁

丁第卅八號

諸收入金上納記明細書等ノ書式ヲ改正ス

一四三丁

丁第卅九號

徴収金錢遞附錄雛形ヲ定ム

一四八丁

- 丁第四十號 官吏出張ノ際公用書類携帶費ノ制限ヲ定ム 一六一丁
- 丁第四十一號 陸軍上等卒ニシテ官吏ノ爲メニ設タル刑法ヲ犯シタル者ノ處分方 一六二丁
- 丁第四十二號 醫師醫業ニ關スル犯罪處斷ノ節ハ内務省へ通知セシム 一六三丁
- 丁第四十三號 在留朝鮮人歸國後訴訟事件ニ付尋問方ニ付テノ手續 同 丁
- 丁第四十四號 廢戶主并財産管理ノ事 一六五丁
- 丁第四十五號 輕罪裁判所ニ於テ處斷セシ重罪各表編成方ヲ定ム 一六八丁
- 丁第四十六號 飯山銀行鎖店ニ付該店ニ關ス

- 丁第四十七號 小野組ニ對スル訴訟ニシテ大藏省達ノ期限外ニ出ツル者ハ受理セシメサルヲ 同 丁
- 丁第四十八號 輕罪事件表式中へ追加ス 一七〇丁
- 丁第四十九號 官府ヨリ人民ニ對スル控訴受否ニ付テノ指令ヲ示ス 一七一丁
- 丁第五十號 國税金送納手續ヲ定ム 一七三丁
- 丁第五十一號 始審裁判權ヲ有スル治安裁判所ニ於テ取扱フ郡區戶長ニ對スル詞訟件數表調成方ヲ定ム 一七五丁
- 丁第五十二號 始審裁判所ニ於テ取扱フ郡區

戸長ニ對スル詞訟件數表調成
方ヲ定ム

一七六丁

丁第五十三號

重罪裁判所ニ於テ罰金ヲ禁錮

ニ換フル手續ニ付テノ指令ヲ

示ス

一七七丁

丁第五十四號

本年五六兩月間豫審并ニ公判

言渡書ノ謄本ヲ出サシム

一七八丁

丁第五十五號

書記局掌務心得書第一條ヲ改

正ス

一七九丁

丁第五十六號

内外國勳章受佩者取扱方ニ付

太政官ノ裁令ヲ示ス

一八〇丁

丁第五十七號

十四年第八十三號布告中諸官

應云々ニ付テノ内訓ヲ示ス

一八二丁

丁第五十八號

既決犯罪表中ニ追加ス

一八三丁

丁第五十九號

裁判所在勤官吏出京中歸省願

等ノ手續ヲ定ム

一八四丁

丁第六十號

本年丁第三十一號達諸表調成

方ヲ改正ス

一八五丁

丁第六十一號

諸表調成方ニ付注意ノヲ

一九〇丁

丁第六十二號

大坂第百二十六國立銀行ニ對

スル詞訟裁判ハ大藏省告示ニ

依リ處分セシム

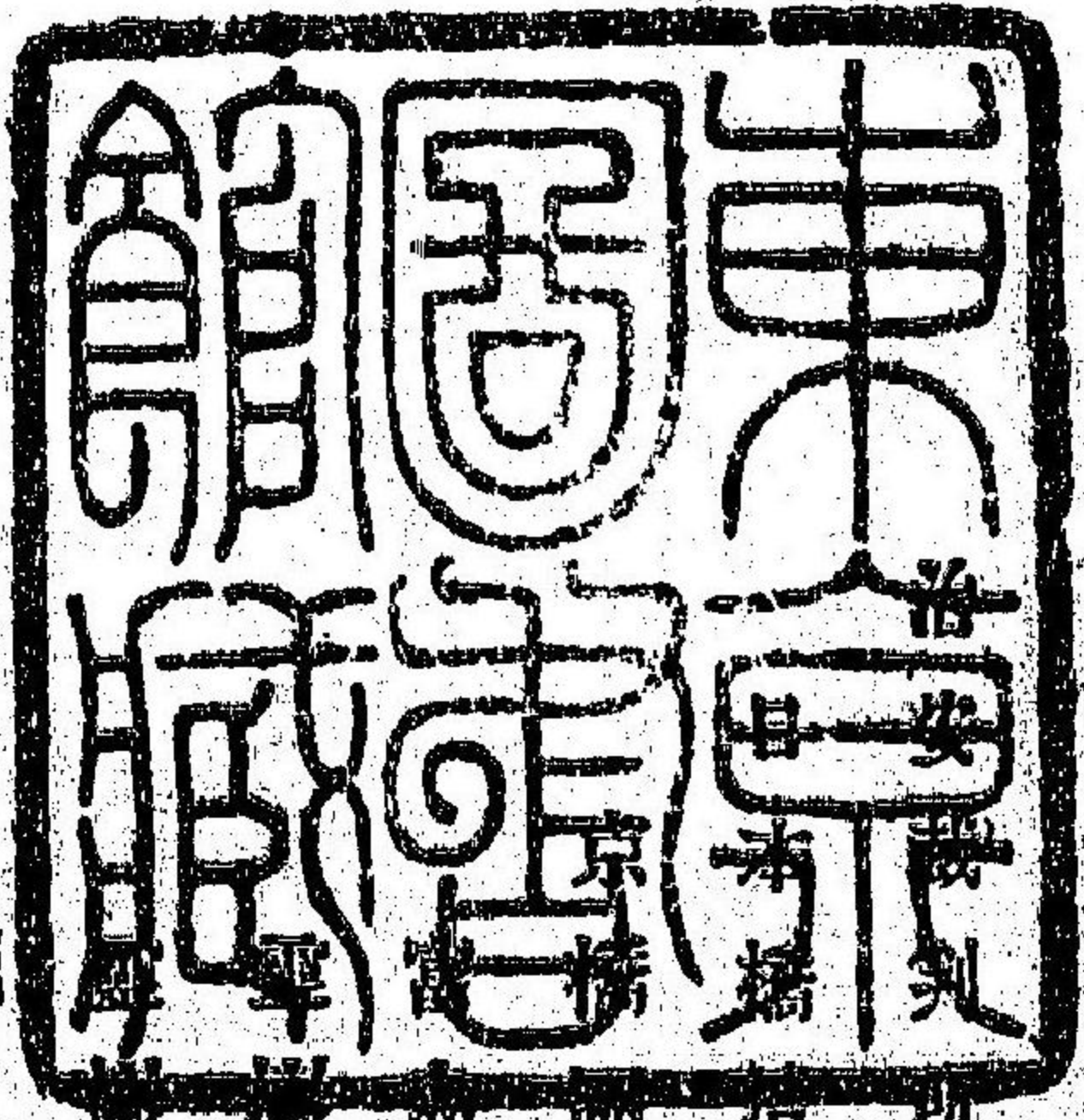
一九一丁

甲第一號 二月三日

明治十四年第五十三號布告裁判所一覽表中何々ノ内ト
掲載有之區郡中其町村名別紙之通候條此旨告示候事

三

治安裁判所管轄區郡分管町村名



治安裁判所
日本橋治安裁判所

京橋區ノ内

高島町

靈巖島鹽町

靈巖島銀町

川口町

東湊町

所轄管區郡分管町村名

南新堀

靈巖島町

大川端町

新船松町

靈巖嶋濱町

靈巖嶋四日市町

長崎町

越前堀

京橋治安裁判所

京橋區ノ内

五

日本橋治安裁判所管轄ノ除キ外一圓

六

下谷治安裁判所

神田區ノ内

麴町本郷兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

北豊嶋郡ノ内

金杉村

日暮里村

谷中本村

坂本村

谷中村

淺草治安裁判所

北豊島郡ノ内

地方橋場町

地方今戸町

地方山谷町

下谷龍泉町

龍泉寺村

千束村

三ノ輪村飛地

千住南組

三ノ輪村

三河島村

町屋村

下上尾久村

里鹽入村

本所區ノ内

新小梅村

小梅瓦町

南本所東町

大平町

錦糸町

柳原町 一二丁目

茅場町 三丁目

花月町

柳嶋町

柳島横川町

南本所瓦町

五ノ橋町

本所北松代町

龜戸町

南葛飾郡ノ内

本所區治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

麴町區治安裁判所

神田區ノ内

雉子町

蠟燭町

旭町

七

永富町	新銀町	松 _下 町
鎌倉町	美土代町	三河町
菅川町	關口町	一ッ橋通町
今川小路	南神保町	表神保町
西小川町	北神保町	裏神保町
中猿樂町	三崎町	猿樂町
小川町	裏猿樂町	錦町
駿河臺 <small>西紅梅町</small>	駿河臺 <small>南甲賀町</small>	
淡路町	同袋町	同鈴木町
堅大工町	千代田町	新石町
塗師町	多町	西今川町
佐 _新 木町	上白壁町	連雀町

南豐島郡ノ内

東大久保村	諏訪村	下戸塚村
西早稻田村	源兵衛村	中里村
牛込村	戸塚村ノ内	宇馬場崎

四ッ谷治安裁判所

南豐島郡ノ内

麴町芝兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

荏原郡ノ内

松原村	赤堤村	上北澤村
池尻村	弦巻村	三宿村
太子堂村	若林村	用賀村
代田村	世田ヶ谷村	世田ヶ谷村新町
經堂在家村	中馬引澤村	野澤村

深澤村 野良田村 等々力村
 瀬田村 上野毛村 衾村
 奥澤村 尾山村

芝治安裁判所

芝區ノ内

品川治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

荏原郡ノ内

三田村

南豐嶋郡ノ内

下澁谷村

本郷治安裁判所

神田區ノ内

神田宮本町

松住町

北豐島郡ノ内

淺草下谷両治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

本所治安裁判所

本所區ノ内

淺草治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

南葛飾郡ノ内

八右衛門新田

千田新田

砂村新田

野良田村

上野毛村

尾山村

等々力村

衾村

神田同朋町

神田臺所町

海邊新田

石小田新田

八郎右衛門新田

永代新田

平井新田

又兵衛新田

裁新田	太郎兵衛新田	大塚新田
中田新田	龜高村	治兵衛新田
久左衛門新田	深川本村	毛利新田
中ノ郷出村	猿江村	大島村
小名木村	六間堀村	深川出村
平方村	東船堀村	上今井村
二ノ江村	東一ノ江村	東小松川村
松本村	鹿骨村	新堀村
一ノ江新田	谷河内村	上鎌田村
當代島村	前野村	上篠崎村
笹ヶ崎村	下小岩村	伊勢屋村
南本所出村	東宇喜田村	長島村
北本所出村	西宇喜田村	龜戸村飛地
桑川村	俗里乙龜戸	

南本所出村飛地

品川治安裁判所

芝區ノ内

芝金杉新濱町	本芝	芝田町
芝車町	高輪南町	同北町
下高輪町	本芝材木町	本芝下ノ町
本芝入横町	芝横新町	芝通新町
芝松本町	芝赤羽町	三田町
三田四國町	三田同朋町	三田功運町
三田臺町	三田臺裏町	芝伊皿子町
高輪臺町	高輪西臺町	芝二本榎町
三田小山町	三田綱町	三田豐岡町

三田松坂町
 三田君塚町
 白金志田町
 白金盛町
 白金猿町
 芝二本榎本町
 三田老増町
 白金丹波町
 三田南寺町
 三田北寺町

荏原郡ノ内

四ッ谷芝両治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

水戸治安裁判所

鹿島郡ノ内

小堤村
 駒場村
 神宿村
 城ノ内村
 海老澤村
 宮ノ崎村
 澤尻村
 上釜村
 成田村
 神山村
 下太田村
 田崎村

網掛村
 鉾田村
 畑田村
 白塚村
 柏熊村
 柏熊新田
 徳宿村
 塔ノ崎村
 當間村
 飯名村
 安房村
 秋山村
 鳥栖村
 駒木根村
 榎山村
 瀧濱村
 上富田村
 紅葉村
 大和田村
 鹿田村
 造谷村
 荒地村
 子生村
 勝下村
 勝下新田
 玉田村
 大戸村
 安塚村
 二重作村
 札村
 梶山村
 青山村
 阿玉村
 江川村
 中居村
 大藏村
 飯島村
 上澤村
 汲上村

臺濁澤村

大竹村

菅野谷村

土浦治安裁判所

同郡ノ内

水戸治安裁判所管轄ノ除外一圓

下田治安裁判所

加茂郡ノ内

沼津治安裁判所管轄ノ除外一圓

沼津治安裁判所

加茂郡ノ内

網代村

上多賀村

熱湯村

松本治安裁判所

伊豆山村

初島村

泉村

十足村

萩村

鎌田村

岡村

竹ノ内村

吉田村

川奈村

新井村

和田村

松原村

湯川村

宇佐美村

笹場村

貴僧防村

姫ノ湯村

戸倉野村

地藏堂村

原保村

管引村

中原戸村

徳永村

冷川村

柳瀬村

八幡村

關野村

城村

宮上村

梅木村

上白岩村

東筑摩郡ノ内

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

西筑摩郡ノ内

奈良井村 費川村

南安曇郡ノ内

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

北安曇郡ノ内

七貴村

上伊那郡ノ内

小野村

三里村

伊那富村

中箕輪村

西箕輪村

南箕輪村

伊那村

飯田治安裁判所

上伊那郡ノ内

松本上諏訪両治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上諏訪治安裁判所

上伊那郡ノ内

藤澤村

長藤村

上山田村

小原村

勝間村

非持村

山室村

荊口村

芝平村

長谷村

東高遠町

美鷲村

伊那部村

澤岡村

福島村

東箕輪村

三日町村

福與村

繩口村

平井出村

赤羽村

澤底村

大町治安裁判所

北安曇郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

南安曇郡ノ内

有明村

東筑摩郡ノ内

生坂村

福嶋治安裁判所

信濃

西筑摩郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

長野治安裁判所

埴科郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

更級郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上水内郡ノ内

飯山治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

飯山治安裁判所

上水内郡ノ内

淺野村

大倉村

蟹澤村

上田治安裁判所

埴科郡ノ内

南條村

中之條村

坂木村

磯部村

戸倉村

内川村

千本柳村

上徳間村

寂蒔村

鑄物師屋村

打澤村

櫻堂村

小嶋村

東船山村

屋代村

向八幡村

更級郡ノ内

網掛村

上五明村

上平村

力石村

新山村

上山田村

若宮村

羽尾村

須坂村

八幡村

桑原村

鹽崎村

稻荷山村

長岡治安裁判所

刈羽郡ノ内

八石山以東小國谷郷太郎村外二十四ヶ村

柏崎治安裁判所

刈羽郡ノ内

長岡治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上京治安裁判所

愛宕郡ノ内

第四組ヨリ第九組迄

第三組ノ内

田中村

高野河原村 一乗寺村

修學院村

葛野郡ノ内

第一組

第六組

第七組

第二組ノ内

西ノ京村

下京治安裁判所

愛宕郡ノ内

上京治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

葛野郡ノ内

前同斷

宇治郡ノ内

第一組

第二組

伏見治安裁判所

宇治郡ノ内

第三組

第四組

本田治安裁判所

北區ノ内

中ノ島通 新堀割秋
月橋以西

中ノ島通 四丁目ヨリ
七丁目マテ 宗是町

常安町

玉江町 一丁目ヨリ
二丁目ヨリ 富島町

古川町

安治川 南通 一丁目ヨリ
北通 三丁目マテ 安治川上通 二丁目

西成郡ノ内

中ノ島天王寺兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

中ノ島治安裁判所

北區ノ内

本田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

南區ノ内

内安堂寺町

上本町

南桃谷町

高津町一番丁

東新瓦屋町

瓦屋町

谷町

田島町

空堀町

松屋町

末吉橋通

鹽町通

安堂寺橋通

順慶町通

横堀町

西成郡ノ内

曾根崎村

上福島村

北野村

川崎村

國分寺村

南長柄村

本庄村

南濱村

光立寺村

下三番村

小島新田村

小島古堤新田

藥師堂村

濱村

南方村

川口村

柴島村

淡路村

南方新家村

木寺村

川口新家村

小島村

堀村

今里村

山口村

西村

南宮原村

宮原新家村

十八條村

蒲田村

新家村

橋本村

三番村

天王寺庄

北
南
西
東
大道村

江口村

小松村

上
南
新庄村

成小路村

浦江村

大仁村

塚本村

堀上村

三津家村

新在家村

野中村

加嶋村

御幣島村

野里村

下新庄村

東高津村

吉左衛門肝煎地

古屋敷地

東成郡ノ内

天王寺治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

天王寺治安裁判所

南區

中ノ島治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

東成郡ノ内

天王寺村

阿部野村

天下茶屋

西成郡ノ内

難波村

今宮村

今在家村

中在家村

勝間村

志紀郡ノ内

南木本村

太田村

沼村

柏原村

弓削村

市村新田

田井中村

老原村

天王寺屋新田

二俣村

堺治安裁判所

志紀郡ノ内

天王寺治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

奈良治安裁判所

高市郡ノ内

八木村

葛下郡ノ内

平野村

王寺村

高村

中筋村出作方

上牧村

五條治安裁判所

高市郡ノ内

奈良治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

葛下郡ノ内

奈良治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

今泉村

門前村

上里村

下牧村

今市村

畠田村

中筋村

藤井村

高松治安裁判所

阿野郡ノ内

丸龜治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

丸龜治安裁判所

阿野郡ノ内

福江村

江尻村

林田村

神谷村

水澤村

御供所村

西庄村

鴨村

青海村

坂出村

氏部村

高屋村

乃生村

名古屋治安裁判所

愛知郡ノ内

日置村

前津小林村

東古渡村
西名古屋村
上名古屋村
下名古屋村

南押切村
北廣井村

熱田治安裁判所

愛知郡ノ内

名古屋治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

岐阜治安裁判所

益田郡ノ内

下原村

高山治安裁判所

益田郡ノ内

岐阜治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

長崎治安裁判所

西彼杵郡ノ内

福江治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

福江治安裁判所

西彼杵郡ノ内

平島村

大分治安裁判所

速見郡ノ内

内窠村

野田村

龜川村

鉄輪村

鶴見村

北南石垣村

別府村

濱脇村

南立石村

東山村

川上村

川南村

川北村

塚原村

中川村

川西村

下川村

谷川村

北海道郡ノ内

宮河内村

廣内村

種具村

追村

丹生村

丹川村

一木村

久土村

原村

里村

市尾村

尾山村

志村

角子原村

北村

横田村

政所村

濱村

竹下村

城原村

市村

木田村

久原村

上野村

細村

馬場村

木佐上村

神崎村

大平村

志生木村

關村

白木村

一尺屋村

諏訪村

大野村

田井村

佐志生村

下ノ江村

中津浦村

大濱村

嶽谷村

田尻村

末廣村

井村

稻田村

勝河内村

武山村

中臼杵村

吉小野村

久木小野村

江無田村

戸室村

市濱村

前田村

家野村	野田村	望月村
深田村	中尾村	左津留村
播懷村	高山村	乙見村
東神野村	臼杵村	二王坐村
海添村	福良村	板知屋村
大泊村	風成村	深江村
大野郡ノ内		
西神野村	垣河内村	泊村
清水原村	白岩村	岩屋村
落谷村	野口村	野津市村
八里合村	福良木村	龜甲村
王子村	山頭村	宮原村
老松村	都原村	鳥獄村

佐伯治安裁判所

北海部郡ノ内

大分治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

大野郡ノ内

重岡村

大平村

鹽見園村

千塚村	西寒田村	久原村
前河内村	吉田村	原村
藤小野村	柚ノ木村	大寒村
秋山村	西畑村	東谷村
下津合村	犬飼村	田原村
黒松村	長峯村	高津原村
柴北村		

河内村
小野市村
出原村
水浦内村
木浦鑛山
千束村

竹田治安裁判所

大野郡ノ内

大分佐伯兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

杵築治安裁判所

速見郡ノ内

大分治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

鹿兒島治安裁判所

日置郡ノ内

水引治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

水引治安裁判所

日置郡ノ内

長里村
湯田村
養母村

大里村
伊作田村
神之川村

川上村
湊村
湊町

江口浦
上名村
下名村

荒川村
鳥平村
濱浦

串木野町

宮崎治安裁判所

那珂郡ノ内

吉村	瀨頭村	芳土村
島ノ内村	盤路村	山崎村
江田村	新別府村	新名爪村
廣原村	東上那珂村	下那珂村
上田島村	廣瀨町	佐土原町
諸縣郡ノ内		
系原村	柳瀨村	有田村
八代北南俣村	深年村	入野村
向高村	田尻村	花見村
飯田村	浦ノ名村	内山村
五町村	高濱村	高岡村
南俣村	三名村	伊佐生村
北俣村	竹田村	森永村
北本庄村		

須志田村	六日町	十日町
吉野村	岩知野村	木脇村
嵐田村	塚原村	小山田村
上倉永村	宮氷洗町	
下倉永村		
都城治安裁判所		
那珂郡ノ内		
宮崎治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓		
諸縣郡ノ内		
宮崎治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓		
福島治安裁判所		
田村郡ノ内		

平治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

白河治安裁判所

安積郡ノ内

若松治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

平治安裁判所

田村郡ノ内

小野新町村

和名田村

小野赤沼村

湯澤村

上道渡村

谷津作村

上羽出庭村

菖蒲谷村

小戸神村

川曲村

南田原井村

鹽庭村

皮籠石村

椽本村

椽山神村

谷田川村

小野山神村

厂股田村

飯豊村

栗出村

門澤村

永谷村

上大越村

今泉村

常葉村

古道村

關本村

鹿山村

中津川村

田母神村

浮金村

菅谷村

牧野村

廣瀬村

桐山村

蘆澤村

西向村

山根村

堀田村

小檜山村

柳橋村

糠塚村

吉野邊村

神股村

堀越村

遠山澤村

船引村

春山村

久保村

岩井澤村

早稻川村

新田作村

若松治安裁判所

安積郡ノ内

三代村

馬入新田村

福良村

赤津村

横濱村

船津村

中野村

館村

青森治安裁判所

上北郡ノ内

野邊地村

有戸村

横濱村

馬門村

天間館村

中岫村

花松村

附田村

覆林村

二ッ森村

野崎村

甲地村

八戸治安裁判所

上北郡ノ内

○ 青森治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

丙第一號 一月十六日

警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

今般刑法治罪法實施ニ付テハ今後刑事裁判統計表之材
料ニ供候間別紙表式及書例之略ニ準シ毎年一月一日ヨリ
十二月三十一日マテニ違警罪事件ヲ記載シ翌年二月マ
テニ取纏メ差出ス可シ候條此段相達候事

○

六四 丙第二號 一月二十七日

警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ除ク

本年丙第一號ヲ以テ相達候違警罪各表式ノ欄外ニ何違
警罪裁判所ト記載アリト雖當分之内左ノ書例ニ據リ記
スル者ト可心得此旨相達候事

違警罪公判表欄外ノ廳名ハ姑ク左ノ例ニ據ルヘシ

何府縣

何警察署

又ハ

何府縣

何警察分署

丙第三號 二月六日

裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ除ク

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年五月當省第九號ヲ以
テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治
十四年十二月第六十七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今
左ノ通改正候條此旨相達候事

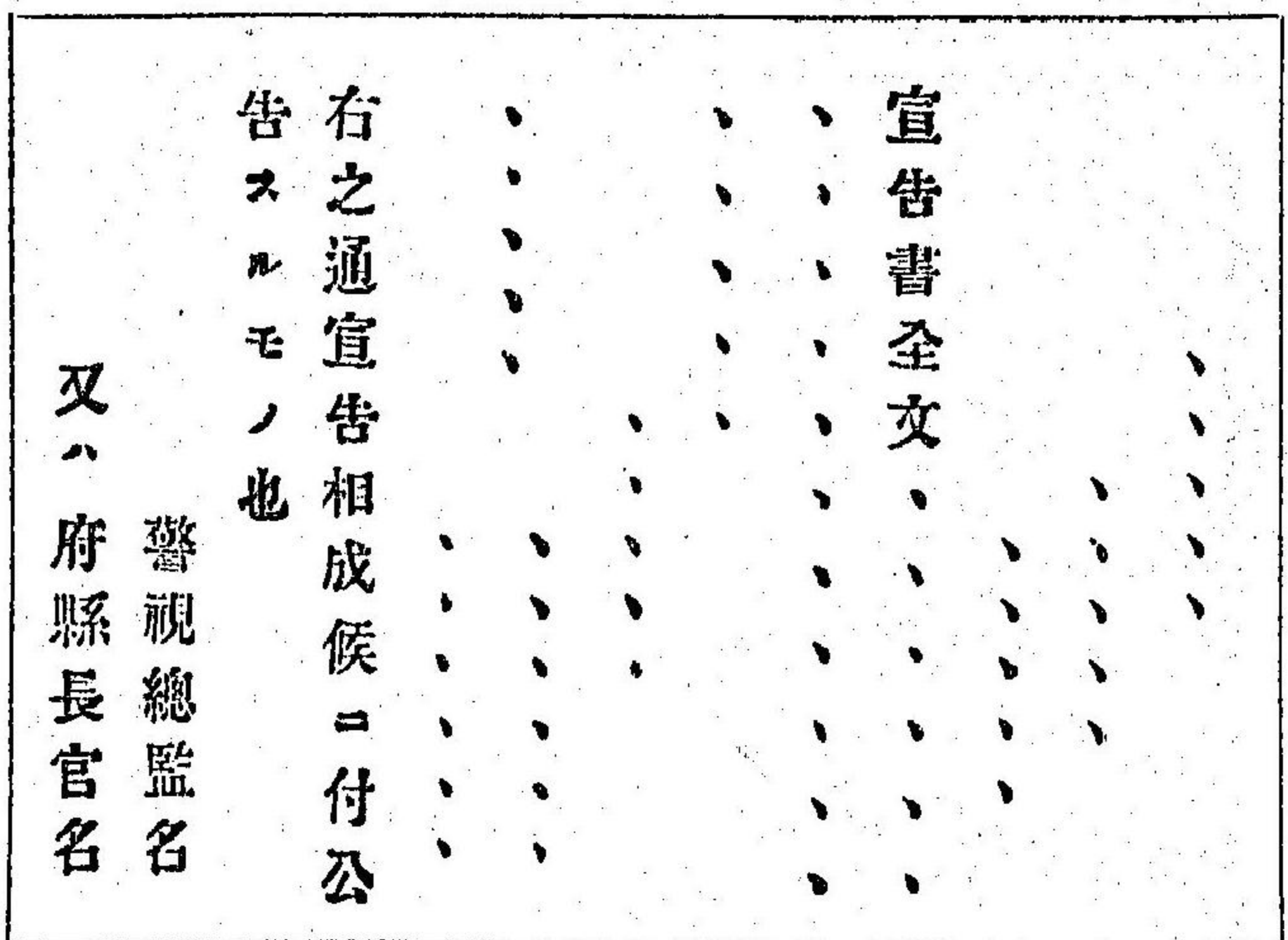
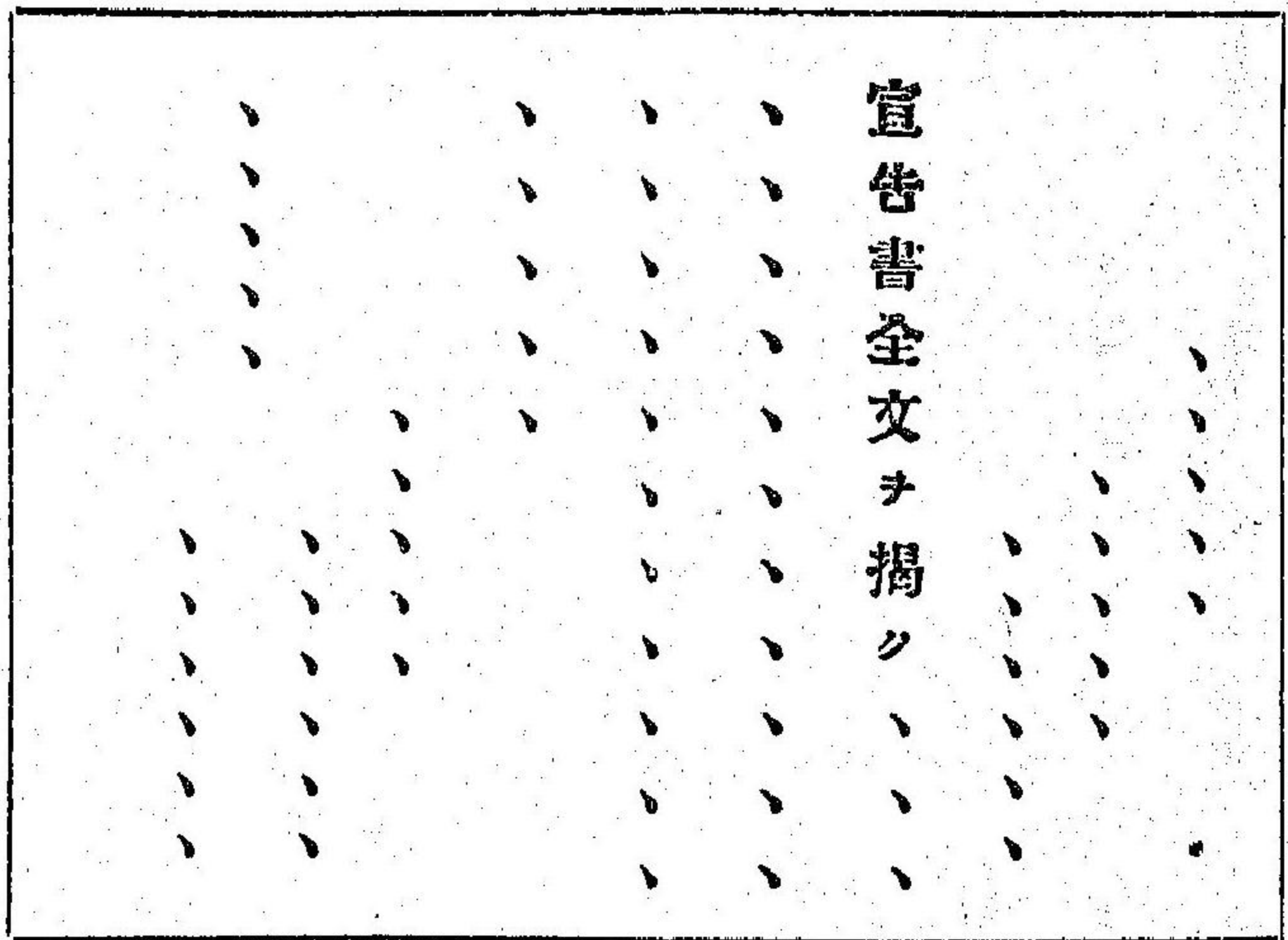
七四

一死刑ノ執行アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左

ノ離形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ
 且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地并犯人住居ノ地
 方(東京ハ)府縣ニ速ニ送達スヘシ
 一警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書
 ノ謄本送達アレハ左ノ離形ニ據リ犯罪ノ地并犯人住
 居ノ地何レモ三日間通衢ニ揭示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告離形
 重罪裁判所門前榜示
 犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

用紙堅質ノ品ヲ撰用ス



治罪法ニ定メタル勾引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラズ但平常休暇ナキ官署ニ付テハ此例ヲ用ヰサル儀ト可心得此旨相達候事

大 審 院
警 視 廳
府 縣 東 京 府 沖 繩 縣 除 外

丙 第 五 號 二 月 十 三 日

檢 察 官 ニ 於 テ 裁 判 所 ノ 命 令 及 ビ 言 渡 ノ 執 行 ヲ 指 揮 ス ル

大 審 院
警 視 廳
府 縣 東 京 府 除 外

○ 當リ其命令書若クハ言渡書ノ謄本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ速ニ其謄本又ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ此旨相達候事

丙 第 六 號 二 月 十 四 日

大 審 院
警 視 廳
府 縣 東 京 府 除 外

始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走セタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左之通心得可シ此旨相達候事

第 一 條 逃 捕 狀 ニ ハ 典 獄 ノ 報 知 書 ニ 依 リ 第 二 号 書 式 ニ

準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記ス可シ

但管轄地ノ内外ニ拘ハラス急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ人相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第三條 管轄地外ハ第一號書式ニ準シ人相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該人相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ

第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル

時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ

第壹號

人相書

本籍身分

氏名

年齢

眼	頭髪	色	顔	丈	

眉	鼻	口	耳	齒	音聲	痘痕	疵所	鬚鬣ノ有無	其他特徴	長所	父母妻子

逃走ノ衣服	同上ノ際	持去ノ物品	罪名	其刑名及ヒ

右者何方ニ於テ處刑中明治何年何月何日第何時何分逃走候ニ付逮捕ノ御處分有之度候也

明治

年月

何裁判所之日之印

何裁判所

檢事氏名印

何裁判所

檢事氏名殿

丙第七號 二月十六日

大 審 院

裁 判 所

警 視 廳

府 縣 東京府
ヲ除ク

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中勾留ノ儀ニ付東京輕罪裁判所檢事大塚盛鏡ヨリ別紙甲號ノ通伺出候ニ付乙號ノ通內訓ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

甲 號

明治十四年太政官第四十六號ヲ以テ略前犯罪ノ地分明ナ

ル被告人ト雖ニ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄ス可キ旨御布告相成候處右實際取扱方ノ儀ハ被告人逮捕ノ地ノ檢察官ニ於テ事件ノ摸樣ヲ審按シ其被告人ヲ管轄裁判所ニ送致スルヲ要セスト思料シタル時ハ事案ノ顛末ヲ犯罪地ノ檢事ニ通知シ併セテ其囑託アル可哉否ヲ照會シ其囑託ヲ待テ起訴可及手續ニ可有之果シテ然ラハ被告人所在地ノ司法警察官ニ於テ其舉動犯人ト思料ス可キ者アル等現行犯ニ准シ處分シ得ヘキ被告人ヲ逮捕シ拘留狀ヲ發シ一應ノ搜查ヲ爲シタル後檢事ニ送致シタル時ノ如キ其拘留狀執行ヨリ概テ已ニ六七日ヲ經過スルヲ以テ囑託ノ義ニ關シ檢事ヨリ前記ノ照會中拘留狀十日ノ期限ヲ過スル者往々之アリ然ルニ檢事ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若

トハ被告人ヲ責付スルノ職權ナキニ因リ重罪犯又ハ逃走等ノ恐アリテ解放シ得ヘカラサル者ニ付テハ如何ニ處分ノ施シ様モ無之去リ連拘留日數經過ノ一點ニ拘束セラレ前書ノ照會ヲモ用ヒスシテ直ニ其被告人ヲ犯罪地ノ檢察官ニ送致スルカ如キハ囑託法ヲ設ケラレタル御旨趣ニ相戻リ可申又ク前書ノ照會一々電報ヲ借ルニ至テハ其事案ノ顛末ヲ盡ス能ハザル而已ナラス此等ノ事件ハ實際頻々遭遇スル所ニシテ其經費モ亦小額ナラサル儀ト存候就テハ右等ノ場合ニ於テハ如何處分致可然哉此段相伺候條至急何分ノ御指令ヲ仰キ候也

東京輕罪裁判所

檢事犬塚盛蕨

明治十五年一月二十四日

司法卿大木喬任殿

乙號

東京輕罪裁判所

檢事犬塚盛蕨

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中拘留ノ儀ニ付伺之趣ハ豫テ管轄裁判所ヨリ囑託ヲ爲シタルモノト看做シ一面ハ其裁判所ニ豫審若クハ公判ヲ求メ一面ハ其犯罪ノ地ノ檢察官ニ其旨ヲ通知スヘシ此旨及内訓候也

明治十五年二月十五日

司法卿大木喬任

〇

丙第八號 三月六日

大 審 院

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官へ護送セシムル際ニ於テハ
監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官へ送
達スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○

丙第九號 三月六日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

帶勤者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ旨渡アリタ
ルモハ其罪狀并刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省へ可届出此

大 審 院
裁 判 所
府 縣 東京府
ヲ 除ク

旨相達候事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章并年金票共收奪ノ上當省
へ差出スヘシ候事

○

丙第十號 三月二十二日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作リタル司法警察
官ヲ證人トスルモハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシ
メ宣誓セシムルコト及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシム
可シ此旨相達候事

丙第十一號 三月二十七日

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶
勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ
當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シ
テ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞

スルヲ得此旨相達候事

明治十五年三月二十二日 太政大臣三條實美

丙第十二號 三月二十七日

裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

明治十四年十二月 當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ
其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違警罪ニ限リ徴收セサル
機取計ヘシ此旨相達候事

丙第十三號 四月十四日

大 審 院

裁判所
警視廳
府 東京府
縣 除

軍人軍屬役限内老疾収贖及存留養親ノ儀別紙ノ通陸軍省ヨリ太政官ニ相伺朱書ノ通御裁令相成候條常人ニ付テモ右ニ照準處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事但本文ニ抵觸ナル指令内訓ハ取消候儀ト心得ヘシ

軍人軍屬役限内老疾収贖及存留養親等ノ儀ニ付伺陸軍々人軍屬ノ犯罪舊軍律ニ依リ流刑徒刑等ニ處スル者其刑期中ハ總テ普通懲役人同様ノ取扱ニテ即チ役限内老疾収贖及存留養親等願出候者ハ常律ニ照シ差許來候處新刑法ニ於テハ右等廢止セラレ候得共客年十二月

以前既ニ願出調査中ニ係ル者ハ勿論其未ダ願出サル者及新律實施ノ後陸軍刑法第二條新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ舊法ニ處シタル者ハ自今以後ト雖モ總テ舊律ニ照シ處分致候方至當ト相考候間何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

明治十五年二月十日

陸軍卿大山 巖

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ通

明治十五年三月二十九日

○

丙第十四號 四月十七日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東 京 府
ヲ 除 ン

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ
昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ相達置候處始審裁判所
所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部
ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

丙第十五號 四月十七日

府 縣

各府縣限リ布令スル條則届出方ノ儀明治六年第六十二
號同八年第三十號ヲ以テ相達置候處自今其府縣ヨリ管

内始審裁判所治安裁判所及ヒ其地ヲ管轄スル控訴裁判
所ニ通牒シ且ツ其年一月ヨリ三月迄ノ分四月廿日限取
纏メ以下之ニ準ヒ一ケ年四度ニ取纏メ當省へ可届出候
條此旨更ニ相達候事

丙第十六號 四月十七日

大 審 院
裁 判 所
府 縣 東 京 府
ヲ 除 ン

褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收スヘキ場合ニ於テハ
本年三月當省丙第九號達ニ照準シ處分スヘシ此旨相達
候事

○

○七 丙第十七號 四月廿五日

警 視 廳
府 縣

大審院并ニ裁判所へ別紙ノ通及内訓候ニ付爲心得此旨
相達候事

大 審 院
裁 判 所

從來法律上ノ疑義伺并請訓等數十條ヲ一通ニシテ差出
シ又ハ箇條ヲ設ケヌシテ數十項ノ條件ヲ列記スル者モ
有之取調方不都合甚ナカラス候ニ付今後ハ總テ箇條ヲ
設ケ十ヶ條以上ニシテ差出ス可シ此旨
及内訓候事

明治十五年四月廿五日

司法卿大木喬任

○ 丙第十八號 五月二日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣東京府
ヲ除ク

治罪法第二百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所
開廳ノ地ノ監倉ニ移ス時ハ檢事ハ前令狀ニ檢事長ノ命
令書ノ寫ヲ添ヘテ重罪裁判所檢察官ニ送致シ其檢察官
ハ是等ノ書類ヲ其地ノ監倉長ニ示シテ被告人ヲ收監セ
シムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律ニ從ヒ被告人ヲ他ノ
監倉ニ移ス場合ニ於テモ此例ニ準スル義ト心得可シ此

一七

旨相達候事

丙第十九號 五月五日

警視廳
府 縣

内訓條例別紙ノ通大審院諸裁判所へ相達置候處其廳府
縣ニ於テモ法律上ノ疑義ニ付テハ該達ニ照依シ内訓ヲ
請フイテ得ヘシ此旨相達候事

大審院長
諸裁判所長
各檢事

今般内訓條例別紙ノ通相定候條此旨及内達候事

明治十二年二月廿四日

司法卿大木喬任

別紙

内訓條例

第一條 凡内訓條例ハ司法卿ト各裁判所檢事トノ間
ニ於テ用ユル所ノ内規ニシテ專ラ情實疏通事理伸暢
ノ爲ニ設クルモノナリ故ニ此條例ニ從フモノハ尋常
伺指令ノ効力アラザルモノトス

但伺指令ハ各其職務ノ權限ニヨリ發令スルモノナ
リ該條例ハ職權ニ不拘唯其注意ヲ要スル爲ニ發ス
ルモノナルニヨリ必シモ準據セザルベカラサルノ
効力アラズトス

第二條 凡民刑上疑問疑讞且裁判百般ノ事情其注意ヲ
要スルモノハ總テ此ノ條例ニ從フベシ

第三條 凡此條例ニ從テ裁判官ヨリ司法卿ニ請フモノ

ハ末文内訓ヲ請フト書シ尋常伺文ニ殊別スベシ

第四條 凡此條例ニ從テ司法卿ヨリ各裁判所ニ致スモノ

ハ末文内訓ニ及ト書シ尋常ノ指令ニ殊別ス

第五條 凡裁判所ニ於テ尋常ノ伺トシテ出スモノト雖

モ司法卿於テ内訓トナスヘク見込ムトキハ末文内訓

ニ及トナシ又内訓ヲ請フトシテ出スモ指令トナスヘ

シト見込ムトキハ末文指令ニ及トナシ還付ス必シモ

原文ヲ改作セシムルヲ要セス簡便ニ從フヲ以テ旨ト

スレハナリ

第六條 内訓ハ指令ノ効力ナシト雖モ其從フベカラザ

ルモノハ其事理ヲ詳悉シ再ヒ之ヲ請ヒ反覆數回妨ケ

ナキヲ以テ其定ムル所ヲ待ツヘシ亦事理申暢ノ意ナ

丙第二十號 五月十一日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ

本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法

第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒収

ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在

ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ヨリ起算ス日ニ所有

主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此

旨爲心得相達候事

但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スル
ニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ
爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

丙第二十一號 六月十日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
東京憲兵本部

被告事件重罪ナル時ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以
下ノ刑ニ處ス可キ者ハ總テ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル

儀ト心得可シ此旨相達候事

丙第二十二號 六月十二日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣 東京府
東京憲兵本部

治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ証人トシテ
公廷ニ呼出ス時ハ本年本省丙第十號達ニ準シ處分スル
儀ト心得可シ此旨相達候事

但シ巡查及ヒ等外吏ハ此限ニアラス

丙第二十三號 六月十六日

裁判所

警視廳

府 縣東京府
ヲ除ク

昨十四年丙第十九號丁第三十四號達中自今違警罪事件
表ハ三通ヲ差出シ輕罪裁判所檢事ハ其一通ヲ備置二通
ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ又其一通ヲ備置豫審及輕
罪事件表ハ二通ヲ差出シ控訴裁判所檢事長ハ亦其一通
ヲ備置各一通ヲ本省へ差出ス可シ此旨相達候事

○

丙第廿四號 六月二十六日

大審院

裁判所

警視廳

府 縣東京府
ヲ除ク

東京憲兵本部

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉帳シテ
他人ノ手ニ在リ及ヒ沒収スヘキモノ若クハ證據ノ爲メ
官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官
檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡
ルマテ其所有主へ假ニ之ヲ下渡シ置クヲ得ヘシ此旨
爲心得相達候事

○

丙第二十五號 六月二十九日

大審院

裁判所

警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

刑法治罪法實施以來刑事ニ付山廷セシメタル証人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立換渡ヲ爲シ候儀モ有之候處該旅費日當等ハ則裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキモノナルハ勿論ノ儀ニ付自今右立換渡ヲ爲スニ不及ル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前ノ指令及ヒ内訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事

丙第二十六號 七月七日

大 審 院
裁 判 所

警 視 廳
府 縣 東京府
ヲ 除ク

治罪法第三百七條第二項公訴裁判費用官ニ於テ擔當スヘキ場合該金額ハ裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

丙第二十七號 八月二十五日

裁 判 所
府 縣 東京府
ヲ 除ク

檢事補兼任ノ警部職務上需用ノ物品等筆硯紙本務兼務ノ所用ニ拘ラス現時出勤之廳ヨリ供給スル義ト心得可シ此旨相達候事

內務卿山田顯義
司法卿大木喬任

丙第二十八號 十月五日

警視廳

府 縣

東京憲兵本部

當省ニ送納可相成贓贖追徵金十六年度豫算取調十四年
度實額及ヒ十五年度豫算額傍記本月二十日限各地差立
申牒爾後増減等有之節ハ每三ヶ月取調其理由記載可届
出此旨相達候事

○

丙第二十九號 十月十三日

警視廳
府 縣
東京府
ヲ除ク

本年當省丙第一號達違警罪公判第一表第二欄書例ハ左
之通但書追加候條此旨相達候事

但女ノ件數中前條男ノ件ト同一ニシテ前後再出スル
者ハ女ノ件數各項内ニ於テ重複數ヲ朱書スヘシ假令
ハ女ノ各條中六十件アリ前ノ男ト同一ノ件十三アレ
ハ四七
一三
○

丙第三十號 十月十六日

始審裁判所

檢事

本年五六兩月ノ中告訴告發ヲ受ケ(違警罪ヲ除ク)警察官ニ於テ
棄却ヲ爲シタルモノハ其件目ヲ記シ來十一月十日迄ニ
各地差立當省へ郵送スベシ此旨相達候事

○ 丙第三十一號 十月二十四日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣東京府
ヲ除ク
東京憲兵本部

本年丙第三十二號達但書左ノ通改正候條此旨相達候事

但 巡 査 及 等 外 吏 ノ 着 席 ハ 此 限 コ ア ラ ス

○ 丙第三十二號 十月二十八日

大 審 院
裁 判 所
警 視 廳
府 縣東京府
ヲ除ク
憲 兵 本 部

總テ官吏ヲシテ職務ニ關スル事件ニ付キ證明セシムル
爲メ其呼出ヲ要スルハ本年當省丙第十號達ニ準シ取
扱フ可シ此旨相達候事
但シ巡査及ヒ等外吏ノ着席ハ此限ニアラス

○

六八 丙第三十三號 十一月二十五日

始審裁判所
府 東京府
縣 東京府
ヲ除ク

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本年當省
丁第五號達中檢事處分表雛形ニ準シ檢事ノ職務ヲ代理
スル警部ニ於テ之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事ニ差
出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ共ニ差出スヘシ此旨
相達候事

丙第三十四號 十二月十三日

大審院
府 東京府
縣 東京府
ヲ除ク

○
樺戸及空知ノ集治監ニ拘禁中ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要ス
ル等ノ事アレハ本年第十六號同第四十一號公布ノ趣モ
有之ニ付該監司獄官ニ囑託スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ
此旨相達候事

丙第三十五號 十二月二十二日

裁判所
警 視廳
府 東京府
縣 東京府
ヲ除ク

○
新法實施日猶淺キヲ以テ當省指令内訓等實際注意ヲ要
ス可キ條件ハ總テ爲心得可致通牒候條此旨豫メ相達候
事

七八

八八 丁第一號 一月七日

大 審 院
裁 判 所

各廳供用書籍目錄調製之儀ニ付明治十一年丁第七號ヲ以テ相達候處右手續并雛形別紙之通リ更正候條此旨相達候事

但今般各廳搦成ニ付テハ其廳所屬之典籍類客歲十二月迄ノ分悉皆取調該雛形ニ照準來ルル二月二十八日限リ可差出候事

九八

自明治何年何月何書或ハ漢書、翻目錄
至明治何年何月何書譯書、洋書

何 裁 判 所

書目

第一門

政事部又、法律、經濟、禮度、官職、統計、詔令

一 著述者及書名
一 翻譯者及書名
以下準之
幾部內買上幾冊
御渡幾冊

第二門

地理部又、物理、化學、醫學、農學、商學、博物學、漁獵

第三門

工學部又、數學、天文

第四門

神典部

第五門

歷史部又、紀傳、編年、考証、家記、雜史、年表

第六門

叢書部

第七門

類書部 又ハ字書

第八門

教科部 又ハ雜書

佛書之部 又ハ英書、獨乙書、蘭書

一 著述書名

幾部 買上或ハ御渡幾冊

原語 以テ假名文字ヲ

出版年月

以下準之

一 書目ヲ區別シテ和書ノ部、漢書ノ部、翻譯書ノ部、洋書ノ

部ト爲ス可シ

一 典籍中欠失アルモノハ(自第何卷)第何卷)欠ト書名ノ下

ニ記スヘシ

一 翻譯書及編纂書ノ如キ逐次出版相成モノニシテ全部

ヲナサ、ルモノハ(自第何卷)至(自第何卷)至何年何月)或ハ(何冊)何

號)幾冊ト詳細ニ記ス可シ

一 洋籍ニシテ號數アルモノハ書名ト部數ノ中間ニ(第何

號)ト記スヘシ

一 調製ノ法ハ前自一月後自七月兩季トナシ兩季中增

加アルモノヲ調査シ七月一月ノ兩度ニ差出スモノト

○

丁第二號 一月十二日

陸海軍治罪法御制定以前舊慣ニ據リ治罪手續執行ノ儀
陸海軍兩省ヨリ太政官へ別紙ノ通相伺朱書ノ通御指令
相成候條爲心得此旨相達候事

陸軍治罪法御頒布相成迄軍人軍屬犯罪ニ係ル治罪
ハ舊慣ニ依リ可然哉ノ伺

陸軍新刑法之儀ハ不日御頒布普通法律ト共ニ來十五年
一月一日ヨリ實施之御沙汰可相成就テハ治罪法ノ儀モ
草案取調過日上申ニ及候處右ハ現今御詮議中ニテ年内
餘日モ無之或ハ刑法ト共ニ實施之運ニ相成間布哉ト劣
ニ恐察仕候果テ然ル時ハ軍人軍屬ノ犯罪ニ係ル總テ治
罪之手續キハ追テ治罪法御頒布相成迄一切舊慣ニ依リ

處分致シ可然哉尤モ別紙記載之箇條ハ慣例ニモ據リ難
ク候間至急御詮議之上何分之御指揮有之度此段相伺候
也

明治十四年十二月十日

陸軍卿大山 巖

太政大臣三條實美殿

一 軍人軍屬ノ重罪輕罪ハ總テ軍衙ニ於テ處分致シ可然
哉

但重罪輕罪ト俱ニ發スル違警罪ハ如何可相心得哉
二 軍民共犯ニ係ル時ハ軍人軍屬ハ軍衙ニ於テ處分致シ
常人ハ司法法衙ニ付シ可然哉將又軍民ノ正從犯ニ係
ル軍人正犯ナル時ハ軍衙ニ於テ從犯ヲ併セ之ヲ審判
致シ軍民共ニ正犯ナル時ハ先キニ告訴告發ヲ受タル

法衙ニ於テ審判致シ可然哉

三 軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍衙ニ於テ審判致シ其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ之ヲ司法法衙ニ付シ可然哉

四 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍衙ニ於テ審判致シ犯罪解散ノ後發覺スル時ハ司法法衙ニ付シ可然哉

五 歸休兵及ヒ豫備後備兵召集ノ期ニ後ル、者ハ司法法衙ニ審判ニ付シ可然哉

六 新陸軍刑法第二十七條ニ掲クル所ノ理事ハ評事若クハ主理ヲ以テ之ニ充テ裁判長ハ各鎮臺營所ニ於テハ軍法會議ノ議長ヲ以テ之ニ充テ可然哉

七一 新陸軍刑法ニ掲クル所ノ流刑及ヒ禁獄輕禁錮拘留ニ處スル者ハ總テ現今禁錮ノ取扱ヒニ徒刑懲役ニ處スル者ハ現今徒刑ノ取扱ニ重禁錮ニ處スル者ハ現今戒役ノ取扱ニ致シ可然哉

八一 軍人軍屬ヲ監視ニ付シタル時其執行處分ノ義ハ其地方警察署ニ付シ可然哉

陸軍治罪法施行ノ日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ伺之通

第一條 伺之通

但書數罪俱發ノ例ニ從フ可シ

第二條 軍人軍屬ハ軍衙ニ於テ處分シ常人ハ司法法衙ニ付スベシ

第三條 軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍衛ニ於テ處分シ其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル時陸軍刑法ヲ犯シタル者ハ軍衛ニ於テ處分シ普通刑法ヲ犯シタル者ハ司法法術ニ付スヘシ

第四條 伺之通

第五條 歸休兵及ヒ豫備後備兵召集ノ期ニ後ル、者ハ軍衛ニ於テ處分スヘシ

第六條 第七條第八條 伺之通

明治十四年十二月二十七日

海軍治罪法御制定迄假手續ニ因リ取扱度儀ニ付伺
海軍治罪法御制定之儀本月七日付往出第一五七二号ヲ

以上請仕置候處右御審査御發令相成候ニハ暫ク日數ヲ要候趣ニ承及候就テハ新刑法ノ儀ハ常律共ニ實施不相成ハ不都合ニ有之候間右刑法實施之日迄治罪法御制定不相成キハ當分別紙數項ノ手續ヲ以裁判事務取扱其他ハ都テ從來ノ慣例ニ依リ施行致候ハ、差支無之見込ニ候條御允許有之度此段伺出候也

明治十四年十二月七日

海軍卿川村純義

太政大臣三條實美殿

裁判事務取扱手續

- 一 海軍々人屬ノ海軍刑法及ヒ普通刑法ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ海軍法術ニ於テ審判スヘシ
- 二 常人ノ海軍刑法ヲ犯シタル者前同斷

三一海軍々人屬普通刑法ノ違警罪ヲ犯シタル者重罪輕罪ト共ニ發シタル時前同斷

四一海軍々人屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シ軍人屬正犯ニシテ常人從犯ナル時モ前同斷

五一海軍々人屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シ俱ニ正犯ナル時海軍法術ニ於テ最初其取調ニ着手シタル時ハ前同斷

六一海軍々人屬在官在役中罪ヲ犯シ免官免役後發覺シタル時ハ前同斷

七一流刑禁獄輕禁錮ノ刑ニ該ル者ハ海軍獄舎ニ錮シ從來ノ禁錮ノ如ク取扱ヒ徒刑懲役ニ該ル者ハ從來ノ徒刑ノ如ク取扱ヒ重禁錮ニ該ル者ハ從來ノ戒役ノ如ク取扱フベシ

八一附加刑中禁治産監視ノ處分ハ地方警察官ニ托スヘシ

海軍治罪法施行ノ日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ伺之通

第一條 伺之通

第二條 常人ト雖モ海軍刑法ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍術ニ於テ審判ス可シ

第三條 數罪俱發ノ例ニ從フ可シ

第四條 第五條軍人軍屬ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シタル時軍人軍屬ハ軍術ニ於テ處分シ常人ハ司法々術ニ附ス可シ

第六條 在官在役中罪ヲ犯シ免官免役後發覺シタル時海軍刑法ヲ犯シタル者ハ軍術ニ於テ處分シ普通刑法

二〇一

ヲ犯シタル者ハ司法々衙ニ付スヘシ

第七條 伺之通

第八條 監視ノ執行ハ其地方警察署ニ付スヘシ

明治十四年十二月二十七日

○

丁第三號 一月十二日

控訴裁判所

始審裁判所

人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ受否又ハ判決見込ニ付現
今伺出ニ係ル件中客年第五十三号布告ニ依リ他ノ管轄
裁判所ニ屬スヘキ分ハ當省ヨリ直チニ其管轄裁判所ニ
移シ處分セシメ候條此旨相達候事

○

丁第四號 一月十三日

大 審 院

裁 判 所

各廳取扱之民事及勸解件數表本年一月ヨリ別紙雛形之
ニ準シ三月毎ニ調成シ翌月十五日限り差出ス可シ此旨
相達候事

但治安裁判所ノ分ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ取纏メ
其裁判所民事事件數表ト共ニ差出ス可シ

○

丁第五號 一月十六日

始審裁判所

三〇一

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表之材
料ニ供候間別紙表式略ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月

四〇一

三十一日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏
ノ差出スル候條此旨相達候事

但治罪法ニ拘ハラス從前ノ規則ニ從ヒ處分セシ者ハ
件數及人員ノミヲ別紙ニ記載シ可差出又公判ノ條件
ハ追テ相達候マテハ從前ノ箇條ニ從テ取調置クヘキ
事

丁第六號 一月十六日

大 審 院
裁 判 所

今般陸軍海軍々人へ勅諭被 仰出候ニ付別紙之通太政
官ヨリ御達有之候條爲心得此旨相達候事

司 法 省

今般陸海軍々人へ別紙ノ通
勅諭被 仰出候條爲心得此旨相達候事

明治十五年一月四日 太政大臣三條實美

五〇一

七〇一

勅諭寫

我國の軍隊の世々天皇の統率し給ふ所に在る昔神武
 天皇躬つから大伴物部の兵とも率る中國のまつるの
 ぬものとも討ち平け給ひ高御座に即のせられて天下
 しろしめし給ひしより二千五百有餘年を経ぬ此間世の
 様の移り換るに隨ひて兵制の沿革も亦屢なりき古の天
 皇躬つから軍隊を率る給ふ御制にて時ありては皇后皇
 太子の代らせ給ふこともありつれと大凡兵權を臣下よ
 委ね給ふことなかりき中世に至りて文武の制度皆唐
 國風又倣ひせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人な
 と設けられしもの兵制の整ひたれとも打續ける昇平に
 狂れて朝廷の政務も漸文弱に流れければ兵農のつか
 ら二お分れ古の徴兵のいつとなく壯兵の姿も變り遂に
 武士となり兵馬の權の一向に其武士どもの棟梁たる者

に歸し世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百
 年の間武家の政治となりぬ世の様の移り換りて斯
 れるの人力もて挽回すへきにあらずとはいひあから且
 は我國體も戻り且は我祖宗の御制に背き奉り淺間し
 次第なりき降りて弘化嘉永の頃より徳川の幕府其政衰
 へ剩外國の事とも起りて其侮をも受けぬへき勢に迫り
 けれぬ朕の皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱
 し給ひしこそ恭くも又惶けれ然るに朕幼くして天津日
 嗣を受けし初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版
 籍を奉還し年を経して海内一統の世とあり古の制度
 に復しぬ是文武の忠臣良弼ありて朕を輔翼せる功績な
 り歴世祖宗の專養生を隣み給ひし御遺澤なりといへ
 も併我臣民の其心は順逆の理を辨へ大義の重さを知れ

るの故にこそあれされは此時に於て兵制を更め我國の
 光を耀さんと思ひ此十五年の程に陸海軍は制を今の
 様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕の統ふる所なれぬ其司
 々をこそ臣下には任すなれ其大綱は朕親之を攬り肯て
 臣下に委ぬへきものあらす子々孫々至るまで篤く
 斯旨を傳へ天子の文武の大權を掌握するの義を存して
 再中世以降の如き失體ならんことを望むなり朕は汝
 等軍人の大元帥なるをされぬ朕は汝等を股肱と頼み汝
 等の朕を頭首と仰きてそ其親の特み深あるへき朕の國
 家を保護して上天の恵に應し祖宗の恩を報いませら
 る事を得るも得ざるも汝等軍人其職を盡すと盡さ
 るとよ由るそのし我國の稜威振へさるとわらぬ汝等能
 く朕と其愛を共よせよ我武維揚りて其榮を耀さは朕汝

等^らと其^{その}譽^{ほまれ}を借^{かか}にぞへし汝^{みづから}等^ら皆^{みな}其^{その}職^{しやく}を守^{まも}り朕^{わが}と一心^{いっしん}になりて力を國家^{こくが}の保護^{ほご}と盡^{つく}さし我國^{わがくに}の蒼生^{そうせい}は永^{とこ}く太平^{たいへい}の福^{ふく}を受け我國^{わがくに}の威烈^{ゐれつ}のみに大^{たい}に世界^{せかい}の光華^{くわうかり}ともなりぬへし朕^{わが}斯^かも深く汝^{みづから}等^ら軍人^{ぐんじん}と望^{のぞ}むなれに猶^{なほ}訓諭^{しんごん}すへき事^{こと}あるをわれいてや之^{これ}を左^{ひだり}に述^のべし

一^{いっ}軍人^{ぐんじん}は忠節^{ちゆうせつ}を盡^{つく}すを本分^{ほんぶん}とすへし凡^{おの}生^{せい}を我國^{わがくに}と稟^らくするもの誰^{たれ}の國^{くに}と報^かゆるの心^{こころ}なるへき況^まして軍人^{ぐんじん}たらん者^{もの}の此^{この}心^{こころ}の固^{かた}らての物^{もの}の用^{よう}に立ち得^たへしとも思^{おも}ひれす軍人^{ぐんじん}として報^か國^{こく}の心^{こころ}堅固^{けんこ}ならざるは如何^{いか}程^{ほど}技藝^{ぎぎ}に熟^{じやく}し學術^{がくじゆつ}も長^{なが}するも猶^{なほ}偶人^{ぐうじん}にひとしめるへし其^{その}隊伍^{たいぶ}も整^{せい}ひ節制^{せつせい}も正^{ただ}しくとも忠節^{ちゆうせつ}を存^{ぞん}せざる軍隊^{ぐんたい}の事^{こと}に臨^{りん}みて烏合^{わがふ}の衆^{しゆう}も同^{どう}かるへし抑^{おさ}國家^{こくが}を保護^{ほご}し國權^{こくけん}を維持^{維持}するの兵力^{へいりき}に在^あれば兵力^{へいりき}の消長^{しょうぢやう}は是^{これ}國運^{こくうん}

の盛衰^{せいざい}なることを辨^{わきま}へ世論^{せろん}も惑^{まど}ひず政治^{せいぢ}に拘^からと只^{ただ}々^{ただ}一途^{いっず}に己^{おのれ}か本分^{ほんぶん}の忠節^{ちゆうせつ}を守^{まも}り義^ぎの山嶽^{さんかく}よりも重^{おも}く死^しは鴻毛^{こうもう}よりも輕^{かろ}しと覺悟^{かくご}せよ其^{その}操^{そう}を破^{やぶ}りて不覺^{ふかく}を取^とり汚名^{おごな}を受^うくるなれ

一^{いっ}軍人^{ぐんじん}は禮儀^{らいぎ}を正^{ただ}しくすへし凡^{おの}軍人^{ぐんじん}より上^{かみ}元帥^{げんすい}より下^{した}一^{いっ}卒^そに至^{いた}るまで其^{その}間^{あひだ}は官職^{くわんしやく}の階級^{かいきゆう}ありて統屬^{とうじやく}するのみならず同列^{どうれつ}同級^{どうきゆう}とても停年^{ていねん}に新舊^{しんきゆう}われに新任^{しんにん}の者^{もの}の舊任^{きゆうにん}のものも服従^{ふくじゆう}すへきものを下級^{かきゆう}のものに上官^{じやうくわん}の命^{めい}を承^{うけ}ること實^{じつ}に直^{ただ}に朕^{わが}の命^{めい}を承^{うけ}る義^ぎありと心得^{こころえ}よ己^{おのれ}の隸屬^{れいじやく}する所^{ところ}もあらずとも上級^{じやうきゆう}の者^{もの}の勿論^{もちろん}停年^{ていねん}の己^{おのれ}より舊^{ふる}きものも對^{たい}しての總^{そう}へて敬禮^{けいらい}を盡^{つく}すへし又^{また}上級^{じやうきゆう}の者^{もの}の下級^{かきゆう}のものに向^{むか}ひ聊^{いさ}も輕侮^{けいぶ}驕傲^{きやうご}の振舞^{ふるま}あるへからと公務^{こうむ}の爲^{ため}に威嚴^{ゐげん}を主^{しゆ}とする時^{とき}の格別^{かくべつ}なれ

とも其外の務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上
 下一致して王事に勤勞せよ若軍人たるものにして禮
 儀を素り上を敬ひす下を惠ますして一致の和諧を失
 ひたらんよは常に軍隊の益毒たるのみかは國家れ爲
 にもゆるし難き罪人なるへし
 一軍人の武勇を尙ふへし夫武勇の我國にて古よりい
 とも貴へる所あれの我國の臣民たらんもの武勇なく
 ての叶ふまじ況して軍人の戦は臨み敵あ當るの職な
 れの片時も武勇を忘れてよかるへきのさのわれ武勇
 の大勇あり小勇ありて同のらそ血氣にはやり粗暴
 の振舞なとせんの武勇とい謂ひ難し軍人たらむもの
 の常は能く義理を辨へ能く膽力を練り思慮を殫して
 事と謀るへし小敵たりとも侮らそ大敵たりとも懼れ

す己か武職を盡さむこそ誠の大勇よのわれされの武
 勇を尙ふもの常々人に接るに温和を第一とし諸
 人の愛敬を得むと心掛けよ由なき勇を好みて猛威を
 振ひたらん果の世人も忌嫌ひて豺狼さとの如く思ひ
 奇む心すへきことよこそ
 一軍人の信義を重んそへし凡信義を守ること常の道に
 はあれとわきて軍人の信義なくては一日も隊伍の中
 お交りてあらんこと難かるべし信とい己か言を踐行
 ひ義とは己の分を盡すをいふなりされは信義を盡さ
 ひと思ひ始より其事の成し得へきか得へらさる
 のを審し思考すへし臆氣なる事を假初は諾ひてよし
 なき關係を結ひ後よ至りて信義を立てんとすれの進
 退谷りて身の措き所よ苦むことあり悔ゆとも其詮な

し始に能々事の順逆を辨へ理非を考へ其言の所詮踐
 ひへからずと知り其義のとも守るへからずと悟り
 なは速に止るこそよけれ古よと或の小節の信義を立
 てんとて大綱の順逆を誤り或の公道の理非に踏迷ひ
 て私情の信義を守りあたらず英雄豪傑ともか禍に遭ひ
 身を滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例甚
 からぬものを深く警戒てやめざるべき
 一軍人の質素を旨とすへし凡質素を旨とせされの文弱
 に流れ輕薄に趨り驕奢華靡の風を好み遂に貪汚よ
 陥りて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく
 世人に爪のしきせらるゝ迄に至りぬへし其身生涯の
 不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍人の間に
 起りて彼の傳染病の如く蔓延し士風も兵氣も頓ふ

衰へぬへきこと明なり朕深く之を懼れて曩に免黜條
 例を施行し略此事を誠め置きつれと猶も其惡習の出
 んことを憂ひて心安からぬ故に又之を訓ふるそか
 し汝等軍人も此訓誡を等閑にな思ひそ
 右の五ヶ條の軍人たらんもの暫も忽にすへあらそさて
 之を行んには一の誠心こそ大切なれ抑此五ヶ條の我
 軍人の精神にして一の誠心の又五ヶ條の精神なり心誠
 ならされの如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて
 何の用よの立つへき心た誠わきの何事も成るもの
 をかし況してや此五ヶ條の天地の公道人倫に常經なり
 行ひ易く守り易し汝等軍人能く朕が訓に遵ひて此道を
 守り行ひ國を報ゆるの務を盡さは日本國の蒼生擧りて
 之を悦びなん朕一人の憚のみきらんや

明治十五年一月四日

御名

○

丁第七號 一月十六日

裁判所

從來裁判所ヨリ管内一般ノ人民へ達スヘキ事件ハ其旨
ヲ地方官ニ移シ府知事縣令ノ名ヲ以テ布令スヘキ筈ニ
有之候處或ハ裁判所長ノ名ヲ以テ布令スヘキ案文ヲ附
シ達方地方官へ照會候向モ有之哉ニ相聞候右ハ都テ從
前ノ手續ニ從フヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

○

丁第八號 一月十七日

大審院

裁判所

明治十四年丁第三十四號達治罪法表式第四號輕罪既決
未決事件表裏面治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ
ルハ云々トアルヲ左ノ如ク改正シ及ヒ左ノ表式之略ヲ
增補候條此旨相達候事

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルハ本表ニ準
シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢
事へ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ左ノ表式ニ準
シテ更ニ調成シ管轄ノ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

○

丁第九號 一月二十日

裁判所

十四年甲第七號布達裁判言渡ノ謄本ヲ求ムル者上納金并ニ全年丁第二十六號使丁規則第十五條ノ違約金徵收ノ上ハ雜収入ニ組入月々本省ニ納附候義ト可心得此旨相達候事

○

丁第十号 一月二十三日

控訴裁判所
始審裁判所

客年第八十三號布告ヲ以テ治安裁判所及始審裁判所ノ權限相定メラレ候ニ付テハ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ハ始審裁判所ニ於テ受理スヘキハ勿論ニ候處右布告ヲ知得サル前ニ於テ舊區裁判所若クハ治安裁判所ノ裁判ニ對シテ始審裁判所ニ控訴スヘキモノニ對シ控訴裁

判所ニ控訴スル者ハ控訴裁判所ニ於テ之ヲ受理シ管轄始審裁判所ニ引繼クヘキ儀ト心得ヘシ此旨爲念相達候事

○

丁第十一號 一月三十一日

控訴裁判所
始審裁判所

重罪裁判所印章左ノ雛形ノ通相定候條該裁判所開設ノ地方所在控訴裁判所ニ於テ調製シ常ニ備置候様可致此旨相達候事

但調製ノ上ハ印鑑ヲ以テ可届出候事

印章雛形

分五寸一尺曲方

某々	重罪	裁判所
----	----	-----

名稱ハ明治十四年
第七十八號布告ニ
據ル

字休ハ篆書ヲ用ヒ成ヘシ認易キヲ要ス且地名文字ノ數
ニ依リ或「之印」等ノ字ヲ刻スルモ妨ケナシ

○
丁第十二號 一月三十一日

裁判所 東京府
ヲ除ク

從來判事檢事出京之節半任官以下適宜隨行為致候儀モ
有之候處自今右隨行之儀ハ不相成候條此旨相達候事

○
丁第十三號 二月十七日

大審院
裁判所

明治十四年第八十二號布告ニ依リ處分セシ刑事件數ハ
既決未決事件表中ニ記載難致義モ可有之ニ付左ノ書式
ニ準シ表末或ハ別紙ニ記載ス可シ此旨相達候事

一十四年十二月殘件 何 件

既濟 何 件
未濟 何 件

糾問件數及ヒ大審院ノ死罪案件數控訴裁判所ノ懲役終
身案件數等ハ本文ニ準シ各別ニ掲ク可シ

○
丁第十四號 二月二十三日

治罪法第三百三十五條ニ從ヒ豫審判事ヨリ各控訴裁判所
檢事長ニ被告入ノ人相書ヲ送致シ若クハ其檢事長ヨリ
管轄地内ノ檢事ニ搜查及ヒ逮捕ノ處分ヲ命スル時ハ本
年本省丙第六號達第一號書式ニ照依シテ人相書ヲ作リ
其命ヲ受ケタル檢事ハ第二號書式ニ照依シテ逮捕狀ヲ
作ルヘシ此旨相達候事

○

丁第十五號 三月一日

始審裁判所

入民ヨリ郡區戶長ニ對スル詞訟取扱方ノ義ニ付昨明治
十四年丁第九號達ニ有之候處受否又ハ判決案伺出ノ際

往々不都合ノ向モ有之候條右伺出ノ節ハ原被告ヨリ差
出シタル訴答書ハ勿論一切ノ書類正本一通及ヒ謄寫ノ
副本一通合セテ二通并ニ判決案モ正副二通相添可差出
儀ト可心得此旨相達候事

○

丁第十六號 三月八日

始審裁判所

控訴書類返附遞送費ノ義ニ付別紙大審院上申ニ對シ朱
書ノ通指令及置候條此旨相心得可取計事

上等裁判所ヨリ上告届出候趣ヲ以テ控訴書類遞送後其
儘期限ヲ經過シ上告及ハス當院ニ於テ右書類返戻及候
節遞送入費ノ義ハ是迄官費ニ相立來候處右ハ人民ヨリ

六二一

取立可然ト相考候得共當院ニ於テ直ニ各地在住ノ人民ヨリ取立候テハ實際繁雜ノ手數ニ相涉リ候間以來上等裁判所ニ於テ遞送入費取立ノ節當院ヨリ返戻ノ入費ヲモ併テ取立置キ候得ハ可然哉ト相考候條右ノ趣各上等裁判所へ御達相成度此段上申候也

大審院長

明治十二年七月十一日

判事玉乃世履

司法卿大木喬任殿

朱書 指令

上申ノ趣聞届候事

明治十二年八月五日

○

丁第十七號 三月二十日

控訴裁判所

軍人軍屬ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第十四號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

○

丁第十八號 三月廿日

始審裁判所

軍人軍屬ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丙第六號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

○

七二一

丁第十九號 三月廿九日

大 審 院
裁 判 所

明治十一年當省丁第二十七號達新聞條例及讒謗律犯者
表離形別紙之通改正候條右ニ照準年兩度ニ取調前季
自一月分ハ七月十五日限後季自七月分ハ翌年一月十
至六月分ハ七月十五日限後季自七月分ハ翌年一月十
五日限可差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事
但治安裁判所ノ分ハ始審廳へ取纏メ可差出事

凡 例

- 一本表ハ集會條例新聞條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜
誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演說ヲ爲シタル犯者
ニシテ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス
- 一所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從

- テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ
- 一數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論
セサル者モ本表記載ノ例ニ準シ一々記載ス可シ
- 一一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若
シハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更論シタル者ハ
各々本表刑名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス
可シ
- 一上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラズ原裁判ノ刑名ヲ記
入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス
- 一公然ノ演說上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル
者ハ本表新聞名ノ欄内へ其社名ヲ書シ若シ社名アラ
サル者ハ其理由ヲ記入ス可シ

○

○三一 丁第二十號 三月二十九日

大審院 裁判所

裁判傍聽ノ儀ハ官民ヲ擇ハス俾テ傍聽席ニ相廻シ可申
此旨相達候事

但シ外國人ニシテ公然ノ照會ヲ經タル者ハ此限ニラ
ス

○

丁第二十壹號 四月五日

大審院 裁判所

民事裁判上人民召喚狀脚夫賃錢及赤貧者喚問途中旅費
支出方ノ儀ニ付明治十年本省丁第八十六號達ニ及置候

處嚮ニ内務省ヨリ協議有之今般同省ニ於テ乙第貳拾號
ノ通府縣ニ達相成候條此旨爲心得相達候事

○

丁第二十二號 四月五日

大審院 裁判所

今般太政官ヨリ左ノ通御達相成候ニ付此旨相達候事

太政官達 明治廿五年
三月廿九日

北海道兵備ノ儀ハ追テ軍管設置候迄第二軍管管轄ニ被
屬候條此旨相達候事

○

一三一 丁第二十三號 四月十二日

大 審 院
裁 判 所

各廳供用書籍爾來往々紛亂欠亡セシ者モ有之不都合候
條今後別紙之通り相心得聊モ粗漏杜撰之取計無之様注
意可致候此旨相達候事

- 一各廳供用書籍ハ書記局ニ於テ管守シ必ス整理シ散失
セシム可カラス若シ紛失等ノ事アルキハ擔當者其責
ニ任スル者トス
- 一廳員借覽中紛失セシキハ現品ヲ以テ是ヲ償ハシム可
シ若シ現品無之キハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシムル
者トス

但急火等ノ際燒失又ハ紛失セシキハ該所長ニ於テ

篤ト事實ヲ取糺其時々裁可ヲ乞フヘシ

○

丁第二十四號 四月十二日

裁 判 所

左之通豫審判事ニ及内訓候條爲心得此段相達候事

輕罪裁判所

豫 審 判 事

治罪法第三百三十四條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ巡查ヲ
シテ令狀ヲ他管ニ帶行セシムルハ被告事件殊ニ急速ヲ
要スル時ニ限リ輒シ其處分ヲ爲ス可キ者ニアラス又第
百三十五條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ人相書ヲ發シ搜
査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キヲテ請求スル者ハ專ラ重大ノ罪

ヲ犯シタル被告人ニ對シテ發スル者ニ有之被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ罪ノ輕重ヲ問ハス悉ク人相書ヲ發スル者ニアラサルナリ此等ハ兼テ注意アル可キ事ナレトモ猶ホ誤解無之様爲念此段及内訓候也
明治十五年四月十二日
司法卿大木喬任

丁第廿五號 四月十四日

始審裁判所

始審裁判所ノ權限ヲ有スル

治安裁判所

人民ヨリ郡區戶長ニ對スル詞訟取扱方ノ儀昨十四年丁第九號ヲ以テ相達候中明治十二年丁第十九號各上等裁判所へノ達ニ前略右申渡ヲ爲セシ時ハ其都度其趣何某ヨ

官ニ係ル何々ノ件ハ何年何月何日太政大審院へ通報ニ及置クヘキ旨有之右ハ自今此達ニ照準シ管轄控訴裁判所へモ其都度無遺漏可及通報此旨相達候事

丁第二十六號 四月十四日

控訴裁判所

別紙(別紙ハ丁第二)ノ通始審裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ヲ有スル治安裁判所ニ相達候條本人控訴ノ節ハ右ニテ受理不受理ノ義識別可致此旨爲心得相達候事

丁第二十七號 四月十七日

裁判所

各府縣限リ布令スル條則届出方ノ儀明治八年第三十號

同九年第五十六號ヲ以テ相達置候處今般丙第十五號ノ
通府縣へ相達候ニ付自今當省へ届出ニ不及又始審裁判
所ヨリハ本管控訴裁判所へモ届出ニ不及候條此旨更ニ
相達候事

○
丁第二十八號 四月十八日

裁判所

明治十年丁第七十三號第一項中奉命十六日以前トアル
ヲ十七日ト十七日以後トアルヲ十八日ト改正候條此旨
相達候事

○
丁第二十九號 四月二十五日

大審院

明治十四年丁第十四號達審理表雛形丁第十五號達勸解
表雛形相廢候條本年ヨリ差出ヌニ及ハス此旨相達候事

裁判所

○
丁第三十號 五月十六日

大審院

陸軍檢閱條例第四條中左ノ通改正ノ儀太政官御達有之
候條此旨相達候事

裁判所

司法省

陸軍檢閱條例第四條中十月一日ヨリ始メ十一月三十日
ヲ以テ畢リトストアルヲ九月一日ヨリ始メ十月三十一

日ヲ以テ畢リトスト改正候條此旨相達候事

明治十五年五月十日

左大臣熾仁親王

丁第三十一號 五月十八日

大 審 院
裁 判 所

明治十一年丁第二十及二十一二十二號達中刑事訴訟表
離形並記載例ヲ廢シ更ニ別冊之通刑事裁判統計材料
表式并書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ其應ニ於テ取
扱ワル事件ヲ記載シ翌年三月限り差出スヘシ此旨相達
候事

但大審院各表ハ裁判所ニ附セス
治安裁判所ニ於テ輕罪各表ヲ調成シタル時ハ所轄ノ

始審裁判所ニ於テ之ヲ取纏メ共ニ差出スヘシ

丁第三十二號 五月十八日

大 審 院
裁 判 所

明治十一年丙第十一號達相廢ニ更ニ別冊之通刑事裁
判統計材料中特赦表式並書例相定候條本年分ヨリ右ニ
準ニ特赦事件ハ監獄長ヨリ申立ノ者ニ至ル迄總テ調成
シ翌年三月マテニ差出スヘシ此旨相達候事

丁第三十三號 六月十三日

大 審 院
裁 判 所

○四一

審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張候節ハ
其地ノ警察官ニ護送引致方通知可致尤右護送ニ屬スル
費用ハ渾テ警察費ヨリ支辨ノ筈ニ候條此旨相達候事

○

丁第三十四號 六月二十六日

大 審 院
裁 判 所

明治十四年丁第二十六號ヲ以テ相達置候使丁規則第九
條并ニ第十一條左ノ通改正候條此旨相達候事

第九條 送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適
宜其定限ヲ立ツ可シ

但シ送達書ニ賃錢ノ高キ附記ス可シ

第十一條 刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ル者ヨ
リ之ヲ拂フ可シ

○

丁第三十五號 七月五日

裁 判 所

國庫ニ納入スヘキ雜收入其他諸返納等ノ金錢取扱方別
紙之通大藏省ヨリ通達有之候條本年六月全省第二拾二
號府縣達ニ準據シ取扱ヒ候儀ト可心得此旨相達候事

一四一

國庫納入金ニシテ一旦主管應テ經由納附可致金錢取扱
方ノ義ニ付今般府縣ニ別紙ノ通り相達候條御承知可有
之就テハ各地御支廳ニ於テモ右ニ準據取扱候様御示達
有之度尤各支廳ニ於テ不得止事故有之右ニ準據難致分

二四一

ハ豫メ其部目ヲ定メ出納局長ニ照會候様御示違有之度
此段及御通達候也

明治十五年六月三十日

大藏卿松方正義

司法卿大木喬任殿

丁第三十六號 七月八日

裁判所

管内旅費支給方之儀是迄各裁判所管轄區畫ヲ以區分候
處本年七月一日ヨリ一般旅費定則第六章ニ照準所在府
縣管内外ヲ以テ區分支給候條此旨相達候事

丁第三十七號 七月十一日

裁判所

本年五月丁第三拾貳號ヲ以相達候諸表野紙ハ本省ニ於
テ摺立相渡候條紙數取調請求方第九局ニ可申出候事
但本文紙數ニ對スル費用ハ其廳經費ヲ以支拂候儀ト
可心得

丁第三十八號 七月三十一日

裁判所

諸收入金上納記明細書及ヒ贖贖諸罰金月表等從來ノ書
式相廢止別紙離形ノ通改正候條七月以降右ニ照準可差
出此旨相達候事

三四一

凡例

一 始審廳ハ治安廳分ヲ總括合算スルモノトス

凡例

- 一 治安廳ハ雛形ニ照準甲月分ヲ乙月七日限該廳差立主管始審廳ニ送納スルモノトス
- 一 始審廳ハ治安廳分ヲ取纏メ雛形ニ照準ノ甲月ハ始審廳ノ乙月ニ乙月七日限該廳差立本局へ上納スルモノトス
- 一 始審廳ニ於テハ治安廳ヨリ送納スル上納記ハ合算シ明細書ハ各廳ニ區別シテ記載スルモノトス
- 一 代言免許料雜收入等ハ毎月上納ノ手續キナシ訴訟用郵紙稅ハ每三ヶ月取纏メ上納スルモノトス

第一號 用紙美濃梓野紙

上納記

一金

何月分 租稅收入

但何地大藏省爲替方何銀行又ハ誰領収ノ納金證書何業ヲ以テ

金

訴訟用郵紙稅

内

金

裁許用紙
文通用紙

金

代言免許料

右 上納候也

年月日

何裁判所會計課

官 姓名 印

司法省第九局長(或ハ始審裁判所會計課)

官 姓名 宛

上納記

一金

何月分

雜收入

但何地大藏省爲替方何銀行又ハ領収ノ納金證書何葉ヲ以テ

內譯

金

官有物拂下代

內

家屋

物品

官有物貸下料

金

內

金 金

金

家屋

金

雜入

內

贓贖退徵金

金 金

雜收

右ノ上納候也

年月日

何裁判所會計課

官姓名印

司法省第九局長(或ハ始審裁判所會計課)

官姓名宛

第三號 用紙美濃十三行野紙

何年何月雜收入金明細書	
何裁判所何月分	
一金	家屋拂下代
內譯	
金	他地建家何坪何ニ付拂下代
金	同
一金	物品拂下代
內譯	
金	炭明キ俵幾何拂代但壹箇ニ付何程
金	紙屑何貫目拂代但壹貫目ニ付何程
金	灰幾何拂代但幾何ニ付何程

金	何品何箇何ニ付拂代但壹箇ニ付何程
一金	家屋貸下料
內譯	
金	何家何ニ付何ノ誰ノ貸下料
金	同
一金	雜收
內譯	
金	宣告謄本料何枚分何人納
金	下肥何荷拂代但壹箇ニ付何程
金	何々
一金	贖賸追徵金
內譯	

金	金	内	金	金	内	金	金	内	金
同	國郡町村人名何々付納		附加罰金	同	國郡町村人名何々付納	罰金	同	何品何ノ誰何々付拂代	贓物賣拂金

金	金	内	金	金	内	金	金	内	金
同	國郡町村人名何々付納		贓金	同	國郡町村人名何々付納	收購金	同	國郡町村人名何々付納	贈罪金

金	科料金
内	
金	國郡町村人名何々付納
金	同
金	保釋金
内	
金	國郡町村人名何々付納
金	同
金	罰俸
内	
金	何ノ誰何々付納
金	同

金	使丁違約金
内	
金	何ノ誰何々付納
金	同
合計(治安或ハ始審各應ノ合計)	
	何裁判所何月分
一金	家屋拂下代
内	
内	
金	何地建家何理何々付拂下代
金	同

(以下前ニ倣フ)

合計(治安或ハ始審各廳ノ合計)			
總計(各廳ノ合計ヲ總計スルモノ)			

丁第三十九號 八月八日

大 審 院
裁 判 所

裁判上徴收スル金錢之儀書記局ニ於テ領收ノ即日會計課ニ授受ノ手續ヲ爲サズ數日若クハ數月間其儘差置候

書記局遞附錄

寄託年月日	番號	金額	員事	事由	會計課受領証印	請求年月日	事由
明治十五年 何月何日	壹	百二十五圓	○ 何某 盜贓金	○	明治十五年 何月何日	內金三十圓 事主何某 下ケ戻スヘキ 分請求	
全	貳	二十五圓	○ 何某何々犯 則罰金	○	何月何日	內金七十圓 事主何某 下ケ戻スヘキ 分請求	
內壹ノ	(一) 藤ノ寄託 スルキノ例	數口ニ還附	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	

向モ有之哉。相聞不都合之至。候條自今既決未決ヲ問ハズ總テ別紙雛形ニ照準シ徴收ノ時々會計課ニ附托授受可取計此旨相達候事

但目下書記局等ニ現在スルモノハ速ニ本文手續ヲ以會計課ニ可引渡事

一金員ノ上額楕圓印影ハ假ニ主任判檢事其下圓形ハ書
 記トシ受領印ハ會計主任ノ印トス
 一各廳ノ便宜ニ依リ種類ヲ別ツタメ帳簿ヲ區分スルハ
 適宜タルヘシ

會計課遞附錄

還附 年月日	番 號	金 員	事 由	受領証 印
明治十五年 何月何日	內登ノ	三拾圓 會計主任	何某盜贓金ノ内事主 何某下戻スヘキ分	判檢事 主任
何月何日	內登ノ	七拾圓 會計	何某盜贓金ノ内事主 何某下戻スヘキ分	

丁第四十號 八月十四日

大 審 院
裁 判 所

官吏各所出張之節公用書類等輕重ヲ問ハス驛送リ人足
 ヲ以テ携帶歸廳後該費請求候向モ有之候處自今量目一
 貫目以上方圓尺度一尺以上ニ及フモノハ官費ニ相立其
 以下ハ官費支給不相成候條各自携帶候儀ト可心得此旨
 相達候事

但出張先へ携帶スヘキ本文量目以上ノ分ハ該廳會計

課ヲ經由ハ驛送リ人足ヲ以テ差出ス可シ又出張先ヨリ任所ノ廳迄遞送ノ分ハ通運會社先拂賃ヲ以テ差出ス可シ

○

丁第四十一號 八月二十一日

大 審 院
裁 判 所

今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

太政官達

明治十五年
八月十五日

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ準シ候儀ト可心得此旨相達候事

○

丁第四十二號 八月二十一日

大 審 院
裁 判 所

本年八月第三十九號公布ニ依リ今般内務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ候節ハ其都度該宣告文謄本相添内務省へ通知候様可致此旨相達候事

○

丁第四十三號 八月廿二日

大 審 院
裁 判 所

御國人民ヨリ朝鮮國人ニ對スル控訴ノ儀ニ付大坂控訴

裁判所ヨリ甲號ノ通伺出テ乙號ノ通及指令候條爲心得
此旨相達候事

甲

我國人ヨリ在朝鮮國同國人ハ係ル控訴被告人召喚
ノ儀ヨ付伺

大坂府下秋宗清兵衛ヨリ全府羈留朝鮮國人朴琪滄ハ係
リ大坂始審裁判所ハ出訴ノ末別紙控訴狀之略ニ掲載ノ如
ク裁判ヲ受ケ之ニ服セヌ及控訴候然ルニ被告人ハ右裁
判後歸國致シ現今ハ釜山浦辨察衙門中ニ罷在候趣ヨ付
召喚ノ手續ハ當廳ヨリ直チニ彼港在留我國領事ハ照會
シ領事ヨリ彼ノ官衙ニ移シ候順序ニ而可然裁別紙照會
案之略相添ニ併セテ伺候間至急御指令ヲ乞ヒ候也

大坂控訴裁判所長

明治十五年七月廿二日

判事清岡公張

大木司法卿殿

乙

伺ノ趣必スシモ被告人ノ出廷ヲ要セサル儀ニ付訴狀ヲ
添ヘ領事廳ニ移文シテ被告人ノ答辨書ヲ差出サシムル
様可取計事

明治十五年八月廿一日

○

丁第四十四號 八月二十二日

大 審 院
裁 判 所

廢戶主并財產管理ノ儀ニ付左ノ通リ太政官ヨリ御達相
成候條此旨爲心得相達候事

司 法 省

廢戶主并財產管理ノ儀ニ付別紙ノ通内務省ヨリ伺出朱
書ノ通及指令候條其旨爲心得諸裁判所へ可相達事

明治十五年八月十四日

太政大臣三條實美

廢戶主并ニ財產管理ノ義ニ付伺
別紙嶋根縣伺ノ趣審案候處第一條受刑者廢戶主ノ義ハ
去ル明治十年中法制部ニ質問ノ上一年以上ノ懲役ニ處
セラレ一家營生難相立場合ニ於テハ戶主ヲ廢スルヲ許

可致來候處今般新刑法御實施ニ付爾後ハ舊例ニ準據シ
輕重禁錮一年以上ノ處刑ヲ受ケ一家生計難相立者ニ限
リ父母若シハ親屬協議ノ上廢戶主出願スレハ聞届不苦
候哉又其第三條禁治産ノ處分ヲ受タル者ノ財產管理ハ
曩日上申致置候通リ後見人規則御設定相成候上同規則
ニ據リ可取扱心得ニ有之候得共其第四條管理ノ職ニ任
スヘキ家族親戚ナキ者ハ戶長ヲシテ財產保管セシメ其
負債償却等ハ惣テ裁判處分ニ歸セシメ候テ可然候哉全
縣伺書之相添此段相伺候也

明治十五年五月十九日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

伺ノ趣左ノ通可相心得事

明治十五年八月十四日

第一條 廢戶主ノ儀ハ伺之通

第三條 財産管理人ノ儀ハ受刑者ヲシテ家族又ハ親戚

ノ内ニ就テ之ヲ撰定セシメ其姓名ヲ管轄裁判所ニ届

出テ置キ他日賣買貸借等ノ一アルトキハ都テ該所ノ

處分ヲ仰カシムヘシ

第四條 戶長管理ノ儀ハ伺ノ通

○

丁第四十五號 九月一日

裁判所

重罪ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處スヘキ者ハ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル儀ニ候處右ハ輕罪公判各表ニ據ル難キ場合アルヲ以テ此類ニ限リ重罪公判

各表ノ例ニ準シ編成シ輕罪各表ト共ニ差出ス儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○

丁第四十六號 九月五日

大審院 裁判所

長野縣下飯山第二十四國立銀行今般大藏省於テ鎖店中付テ國立銀行條例ニ依リ處分方取扱相成同省告第百號告示ノ趣モ有之ニ付該銀行本支店又ハ出張所ヲ出ニ對シ既ニ出訴中ノモノト雖モ猶右告示ニ依リ其取引ノ義ハ該處分ニ歸セシムヘキ筋ニ有之候條爲念此旨相達候事

○

丁第四十七號 九月五日

大 審 院
裁 判 所

小野組閉店以前該組ト取引セル債主ハ明治七年第百二十九號布告并明治八年大藏省甲第十四號達ニ依リ當時同省ニ申出其處分ヲ可受管ノ處往々其申出ヲ怠リ當今ニ至リ出訴致候者有之哉ノ趣右ハ不都合ノ義ニ付出訴致候トモ可取上モノニ無之候條此旨相達候事

丁第四十八號 九月十二日

大 審 院
裁 判 所

本年丁第八號ヲ以テ相達候昨十四年丁第三十四號達治罪法表式第四號輕罪既決未決事件表裏面改正文中へ左

之通但書追加候條此旨相達候事

但昨十四年第七十七號公布ニ依リ總テノ輕罪ヲ裁判スヘキ各治安裁判所ノ豫審表モ此例ニ準スヘシ

丁第四十九號 九月廿六日

大 審 院
裁 判 所

官府ヨリ人民ニ對スル詞訟ノ控訴受否伺ノ儀ニ付別紙ノ通名古屋控訴裁判所ヨリ伺出テ朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

但本文達ト抵觸セル從前ノ指令内訓ハ取消ス

人民ヨリ院省府縣等ヲ控訴被告トシ覆審ヲ需ムル
 控訴受理不受理ハ伺ヲ經ヘキヤ否ヤノ儀ニ付伺
 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟ハ明治九年一月第五号
 御達ニ依リ總テ本省へ伺出御指令ヲ待テ受理致シ候儀
 ハ勿論ニ候處爰ニ初發院省府縣等ヨリ人民ヲ被告トシ
 テ始審裁判所へ起訴シタル訴訟其始審裁判所ニ於テ之
 ヲ受理裁判シタル處該裁判ニ對シ不服ノ旨ヲ以テ人民
 (始審ノ被告ニシテ即)ヨリ院省府縣(始審ノ原告ニシテ即)
 (始審裁判ノ曲者)ヲ控訴被訴ト爲シ控訴スル時ハ尙ホ前顯御達ニ準據シ
 經伺ノ上受理スヘキモノニ可有之哉此段相伺候條至急
 仰御指令候也

名古屋控訴裁判所長

判事小畑美稻代理

明治十五年八月廿九日

判事堤正己

司法卿大木喬任殿

朱書

伺ノ趣經伺ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

明治十五年九月廿一日

○

丁第五十號 十月三日

裁判所 函館控訴并函館始審根室
始審札幌始審所轄ヲ除ク

今般太政官第四十六號御達ノ趣モ有之ニ付當省ニ領收
 候國税金送納方來ル十一月一日以降別紙取扱手續書ノ
 通可相心得此旨相達候事

但本年當省丁第三十八號達上納記凡例第四項ハ同日

以降削除候事

國税金送納取扱手續

第一條 各裁判所ニ領收スル國税金ハ各年大藏省乙第二十五號達國稅領收順序ニ準據會計課主任ヨリ之レヲ大藏省租稅局出張所長ニ宛送納スルモノトス

第二條 訴訟用紙稅并代言免許料等ハ國稅領收順序第二號納稅切符ヲ以テ領收シ之レヲ一旬日毎ニ取纏メ同順序第五號上納証ヲ添テ所在租稅局出張所ニ送納スルモノトス

但所在租稅局出張所ノ區畫ハ各年太政官御達第七十五號ヲ參考スヘシ

第三條

租稅局出張所ヨリ回送スル領收証ヲ一ヶ月分毎ニ取纏メ本年當省丁第三十八號達上納記ニ添テ本省ニ進達スルモノトス

但治安廳ニ於テハ租稅局出張所ヨリ回付スル領收証ヲ始審廳ニ送付スヘシ

第四條

各廳ニ於テ收入ナキ月ハ翌月二日限其旨所在租稅局出張所ニ通知スヘシ

第五條

過誤納ヲ發見シテ下戻ヲ要スルキハ其旨所在租稅局出張所ニ通報該手續ヲ爲スヘシ

○
丁第五十一號 十月五日

始審裁判所ノ權限ヲ有スル

治安裁判所

六七一

人民ヨリ郡區戶長ノ職務上ニ對スル詞訟件數ハ明治十一年丁第二十二號違民事訴訟表雛形ニ準シ別表ニ調成スヘシ此旨相達候事

丁第五十二號 十月五日

始審裁判所

昨十四年第八十三號公布第五條ニ依リ治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴及ヒ同年當省甲第四號布達人民ヨリ郡區戶長ノ職務上ニ對スル詞訟件數ハ明治十一年丁第二十一號ヲ以テ各上等裁判所ニ相達置候別紙訴訟表雛形之ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事
但郡區戶長ニ對スル件ハ別紙雛形中初告ノ部ニ記入スヘキ儀ト心得ヘシ

丁第五十三號 十月五日

大 審 院

裁 判 所

罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付神奈川重罪裁判所判事荒木博臣ヨリ別紙甲號ノ通伺出候ニ付乙號ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

甲 號

罰金ヲ禁錮ニ換フル義ニ付伺

重罪裁判ニ付罰金ノ言渡ヲ受ケタル者期限内ニ納完セサル時ハ刑法第廿七條ニ照シ輕禁錮ニ換フヘキ處重罪裁判所閉廳後ハ始審裁判所ニ於右禁錮ニ換フル事ヲ檢

七七一

八七一

察官ノ求ニ因リ其始審裁判所ノ所長判事ニ之ヲ命シ
候様致度右ノ差掛リ候事件有之候間至急御指令相成度
此段相伺候也

神奈川重罪裁判所

明治十五年九月十八日

判事荒木博臣印

司法卿大木喬任殿

乙號

伺ノ通

明治十五年九月廿六日

丁第五十四號 十月十二日

裁判所

本年五六兩月間ノ處分ニ係ル豫審終結言渡并公判言渡
書ノ膠本ヲ製シ本月卅一日限リ其地差立當省ニ郵送ス
ヘシ此旨相達候事
但治安裁判所ノ分ハ所轄始審裁判所ニテ取纏メ一同
可差出候事

丁第五十五號 十月廿五日

大 審 院
裁 判 所

明治十四年十月當省丁第十八號達書記局其他訟廷等ノ掌
務心得書第一條左ノ通改正候條此旨相達候事

九七一

第一條

書記局諸般ノ事務ハ豫メ其主宰ヲ定メ或ハ之ヲ定メサ
ル等實際ノ便宜ニ從フ

丁第五十六號 十一月十五日

大 審 院
裁 判 所

内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人并外國ノ勳章ヲ佩ヒタル
内國人身分取扱ノ儀ニ付別紙ノ通太政官ニ相伺候處朱
書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人并外國ノ勳章ヲ佩
ヒタル内國人身分取扱方ノ義伺
内國ノ勳章ヲ賜リタル外國人ハ内國人ノ帶勳者ト取扱

キ同ス可キハ固ヨリ言テ竣トス亦内國人ニシテ外國ノ
勳章ヲ帶ル者ニ於テモ勳章ハ外國ノ勳章ナレ其佩用
ヲ許奉スル等ハ我カ政府ノ所置ニ係ルノミナラス其外
國ノ勳章ヲ受ケタル者ハ該勳章ニ相當スルノ榮譽ヲ有
スレハ之ニ相當スルノ取扱ヲ爲サ、ル可ラス因テ内國
帶勳者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキ者ト存候得共右ハ身分
取扱上ニ關係スルコトニシテ別ニ可據法例ナキヲ以テ相
伺候條果シテ其取扱ヲ内國帶勳者ト等クシ可キ義ニ候
ハ、外國ノ何々勳章ハ内國ノ何々勳章ニ相當スル者ナ
ルヤ此段合テ至急何分ノ御指揮有之度候也

明治十五年五月二十六日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿